

# 情報処理科

# 令和3年度入学生対象 情報処理科履修系統図

(ITコース)

クラウド・データベース専攻/ネットワーク・セキュリティ専攻/IoT・AI 専攻/xR 専攻/ゲーム専攻

1 年 次		2 年 次	
前 期	後 期	前 期	後 期

## 【情報処理知識系科目】

情報システム構築理論 ③		
パソコン演習 (1.5)		
情報処理 ④	言語研究 ③	
情報数理 ②	国家資格対策1 ③	情報技術研究1 ⑥
修了試験対策 ③	国家資格対策2 ③	情報技術研究2 ③

## 【情報処理技術系科目】

プログラミング言語1 ③	プログラミング言語2 (1.5)	ネットワークセキュリティ ③	ネットワーク構築 (1.5)
アルゴリズム1 ③	アルゴリズム2 ③	アルゴリズム3 ③	
アルゴリズム演習1 (1.5)	アルゴリズム演習2 (1.5)	システム開発の基礎 ③	システム構築 (1.5)
	J a v a 1 ③	J a v a 2 (1.5)	オブジェクト指向プログラミング (1.5)
	S Q L 入 門 ③	データベース設計 (1.5)	

## 【専攻科目】

専攻ゼミナールA (1.5)	専攻ゼミナールC (1.5)
専攻ゼミナールB (1.5)	専攻ゼミナールD (1.5)
	モバイルアプリケーション開発 (1.5)
	Webアプリケーション開発 (1.5)
	エンベデッドプログラミング (1.5)

## 【総合科目】

		イベントプランニング (1.5)
ヒューマンモラル (1.5)	ヒューマンスキル (1.5)	卒業研究 ③
		インターンシップ2 ②
	インターンシップ1 ②	企業フォーカス ①
		職場見学 ①

注意:太線は必修科目 ○又は( )の数字は単位数

# 令和3年度入学生対象 情報処理科履修系統図

(ITコース)  
情報ビジネス専攻

1 年 次	
前 期	後 期

2 年 次	
前 期	後 期

## 【情報処理知識系科目】

情報システム構築理論 ③

パソコン演習 (1.5)

情 報 処 理 ④

情 報 数 理 ②

修了試験対策 ③

国家資格対策1 ③

国家資格対策2 ③

情報技術研究1 ⑥

情報技術研究2 ③

## 【情報処理技術系科目】

プログラミング言語1 ③

プログラミング言語2 (1.5)

ネットワークセキュリティ ③

アルゴリズム1 ③

アルゴリズム2 ③

アルゴリズム演習1 (1.5)

アルゴリズム演習2 (1.5)

J a v a 1 ③

S Q L 入 門 ③

## 【専攻科目】

専攻ゼミナールA (1.5)

専攻ゼミナールC (1.5)

専攻ゼミナールB (1.5)

専攻ゼミナールD (1.5)

ビジネス文書演習 (1.5)

ビジネス文書技法 (1.5)

Office演習1 (1.5)

Office演習2 (1.5)

ビジネス知識 ③

ビジネス技能 ③

プログラミング演習(1.5)

簿記原理 ③

応用簿記 ③

経営と会計 (1.5)

プレゼンテーション (1.5)

## 【総合科目】

ヒューマンモラル (1.5)

ヒューマンスキル (1.5)

イベントプランニング (1.5)

卒業研究 ③

インターンシップ2 ②

インターンシップ1 ②

企業フォーカス ①

職場見学 ①

注意:太線は必修科目 ○又は( )の数字は単位数

# 令和3年度入学生対象 情報処理科履修系統図

(大学編入コース)

1 年 次	
前 期	後 期

2 年 次	
前 期	後 期

## 【情報処理知識系科目】

情報システム構築理論 ③

パソコン演習 (1.5)

情 報 処 理 ④

言 語 研 究 ③

情 報 数 理 ②

国家資格対策1 ③

情報技術研究1 ⑥

修了試験対策 ③

国家資格対策2 ③

情報技術研究2 ③

## 【情報処理技術系科目】

プログラミング言語1 ③

プログラミング言語2 (1.5)

ネットワークセキュリティ ③

ネットワーク構築 (1.5)

アルゴリズム1 ③

アルゴリズム2 ③

アルゴリズム3 ③

アルゴリズム演習1 (1.5)

アルゴリズム演習2 (1.5)

システム開発の基礎 ③

システム構築 (1.5)

J a v a 1 ③

J a v a 2 (1.5)

オブジェクト指向プログラミング (1.5)

S Q L 入 門 ③

データベース設計 (1.5)

## 【専攻科目】

専攻ゼミナールA (1.5)

専攻ゼミナールC (1.5)

専攻ゼミナールB (1.5)

専攻ゼミナールD (1.5)

モバイルアプリケーション開発 (1.5)

Webアプリケーション開発 (1.5)

エンベデッドプログラミング (1.5)

## 【総合科目】

ヒューマンモラル (1.5)

ヒューマンスキル (1.5)

イベントプランニング (1.5)

卒 業 研 究 ③

インターンシップ2 ②

インターンシップ1 ②

企業フォーカス ①

職 場 見 学 ①

【大学編入専攻科目】

物 理 A ②

物 理 B ②

オペレーションズ・リサーチ ②

計 画 科 学 ④

TOEIC英語演習 I ①

TOEIC英語演習 II ①

大学専門科目ゼミナールA ③

大学専門科目ゼミナールB ③

大学専門科目ゼミナールD ③

体 育 1 ①

大学専門科目ゼミナールC ③

体 育 2 ①

経 済 学 入 門 I ③

経 済 学 入 門 II ③

統 計 学 ③

社 会 と 金 融 ③

ミクロ経済学 ④

マクロ経済学 ④

---

注意:太線は必修科目 ○又は( )の数字は単位数

情報処理科

各コース

共通科目

教 科 目 名	パソコン演習	担当教師名	手塚 一志
	Personal Computer Practice 1		
学科・学年・期	情報処理科・1学年・前期	必選・単位数	必修・1.5単位

[授業の目標・方針]

パソコンの基本操作から、仕事で必須の技術となる表計算とデータベースについて、その概要を理解し与えられた基本的な課題を作成できるようにする。またパソコンに興味を持つようなゲーム、音楽や画像処理などを適宜に取り上げること。

[履修に必要なこと]

[成績評価方法]

中間試験・期末試験等の結果とレポートを考慮して評価する。

[教科書]

30 時間でマスターoffice2016 実教出版

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	OS の基本操作 1	マウスの操作 キーボードの操作
第 2 回	OS の基本操作 2	コントロールパネルの操作
第 3 回	OS の基本操作 3	ホルダーの作成 ファイルの複写・移動
第 4 回	プレゼンテーションソフト の基本操作	文字入力 背景画像設定 スライド作成
第 5 回		文字装飾 画像貼付け アニメーション効果
第 6 回	プレゼンテーションソフト での作品作成	企画 準備 構成の基本と要点
第 7 回		効果を出すための要素 発表者の注意
第 8 回	総合課題	レポートの作成と提出
第 9 回	表計算ソフトの基本操作	表計算ソフトの基本的な考え方
第 10 回	表計算ソフトの計算	計算式の書き方 計算式の複写と移動
第 11 回	表計算ソフトの書式と罫線	表を見易くするためのテクニック
第 12 回	表計算ソフトの関数	Sum Min If Vlookup Count などの関数
第 13 回	表計算ソフトのグラフ	表現技法
第 14 回	表計算ソフトの検索機能	データベースとしての操作
第 15 回	総合課題	レポートの作成と提出

教 科 目 名	情報処理	担当教師名	石塚 哲也
	Information Processing		
学科・学年・期	情報処理科・1学年・前期	必選・単位数	必修・4単位

[授業の目標・方針]

「情報化に主体的に対応するための基礎的な知識」と「クライアント環境のパソコンの操作・利用と役割・機能、および情報の利用、情報モラルなどに関わる基礎知識」の習得をする。最終的には情報活用検定3級と2級の合格を目指す。

各授業の内容ごとに満点縛りの豆テストを行う。

[履修に必要なこと]

慣れない用語がたくさん出てくるので、きちんと復習すること。

[成績評価方法]

本番試験の結果・満点縛りの結果と努力成果により評価する。

[教科書]

J 検情報活用3級完全対策公式テキスト 日本能率協会マネジメントセンター

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	情報表現と処理手順	情報の理解と、情報や手段の適切な選択
第 2 回	情報表現と処理手順	情報の収集・伝達の在り方とパソコンの利用
第 3 回	パソコンの基礎	パソコンの代表的な装置と媒体、およびOSの主な役割、データ保存の形式とファイルの管理の仕組みなど
第 4 回	インターネットの基礎と利用	インターネットの特徴とプロバイダの役割、プロトコルを理解する、ブラウザと電子メールの利用、利用するために必要な設定など
第 5 回	情報機器の基本操作	パソコンや情報機器の取り扱い、基本操作、アプリケーションソフトごとの基本的な利用など
第 6 回	情報社会とコンピュータ、情報モラル	身近なコンピュータシステムの役割、情報化の進展における問題点、情報モラル、ネチケットに関する基礎的な知識など
第 7 回	模擬試験 1	模擬試験と見直しを行う
第 8 回	模擬試験 2	模擬試験と見直しを行う
第 9 回	経営戦略とシステム戦略	企業活動（組織、OR・IE、会計・財務）、知的財産権、セキュリティ、標準化、労働関連
第 10 回	プロジェクトマネジメント	プロジェクトマネジメント・サービスマネジメント

第11回	データ構造と情報表現	コンピュータにおける情報の表現・基礎的なモデル化の方法
第12回	問題解決処理手順	問題を改善するための方法・基礎的なモデル化の方法
第13回	パソコンの基礎	コンピュータの種類、および動作原理、周辺機器の種類と役割
第14回	アプリケーションソフトの利用と活用	表計算ソフトの基本的な使い方、プレゼンテーションソフトを用いた、効果的なプレゼンテーション
第15回	総まとめ	満点縛りと模擬試験を利用し、総復習を行う。

教 科 目 名	情報数理	担当教師名	石塚 哲也
	Mathematical		
学科・学年・期	情報処理科・1学年・前期	必選・単位数	必修・2単位

[授業の目標・方針]

以下の項目の能力を身につけることを目標とする。

- 情報社会で生活するための実践的能力
- ネットワーク環境にあるコンピュータと各種機器の役割、アプリケーションソフトを活用した問題解決技法と知識、情報化社会に関わる諸問題および情報セキュリティに対応できる応用知識

[履修に必要なこと]

J検2級合格程度の知識を有している事

勉強の仕方を学び、周囲と切磋琢磨し能力の向上に励むことが出来る意欲がある事

[成績評価方法]

本番試験の結果により評価する。

[教科書]

J検情報活用1級・2級完全対策公式テキスト 日本能率協会マネジメントセンター

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	情報と情報の利用	データと情報・情報の表現方法、情報の活用や処理手順、収集と発信、管理について
第 2 回	パソコンを利用したシステム	オペレーティングシステム、ファイルシステム、パソコン関連機器とインタフェース
第 3 回	ネットワークの利用	情報通信ネットワークの概要、仮想ネットワーク、モバイルコンピューティングやネットワーク上のPC管理についてなど
第 4 回	情報ネットワーク社会への対応	情報ネットワーク社会に関する用語・知識
第 5 回	情報ネットワーク社会への対応	社会におけるコンピュータの利用
第 6 回	情報ネットワーク社会	知的財産権や情報資産などに纏わる法律につ
第 7 回	情報セキュリティ	ネットワーク・コンピュータセキュリティ
第 8 回	表計算ソフト等を利用した問題解決	表計算、データベース等のアプリケーションソフトの利用
第 9 回	模擬試験とゼミ	過去問で模擬試験を行い、その見直しと解き方の理解についてゼミを行う。
第 10 回	模擬試験とゼミ	過去問で模擬試験を行い、その見直しと解き方の理解についてゼミを行う。

第11回	模擬試験とゼミ	過去問で模擬試験を行い、その見直しと解き方の理解についてゼミを行う。
第12回	模擬試験とゼミ	過去問で模擬試験を行い、その見直しと解き方の理解についてゼミを行う。
第13回	模擬試験とゼミ	過去問で模擬試験を行い、その見直しと解き方の理解についてゼミを行う。
第14回	模擬試験とゼミ	過去問で模擬試験を行い、その見直しと解き方の理解についてゼミを行う。
第15回	本番試験	情報処理活用検定1級を受験する。

教 科 目 名	言語研究	担当教師名	石塚 哲也
	Language study		
学科・学年・期	情報処理科・1学年・後期	必選・単位数	選択・3単位

[授業の目標・方針]

2年次の各専攻で必要となる基礎的なプログラミング言語、技術、知識の習得を目標とする。

[履修に必要なこと]

1年次前期で勉強してきた内容を理解していること。

[成績評価方法]

レポート、発表内容等で評価する。

[教科書]

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方・評価方法などの説明
第 2 回	専攻学習	2年次の専攻ゼミナールC, Dに参加し、各専攻で必要となる知識・技術について理解する。
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回	技術調査	各専攻で必要となる技術について調査し、レポートにまとめる。
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第10回	演習	調査した技術について、演習を行い、理解を深めていく。
第11回		
第12回		
第13回		
第14回	発表準備	発表用のスライド作成を行う。
第15回	発表	技術調査した内容と演習内容について発表を行う。

教 科 目 名	情報システム構築理論	担当教師名	石塚 哲也
	Information systems development theory		
学科・学年・期	情報処理科・1学年・前期	必選・単位数	必修・3単位

[授業の目標・方針]

コンピュータが動作するために必要な知識として基数変換や稼働率などを学び、情報処理技術を学ぶための基礎を作る。

[履修に必要なこと]

新しい知識を習得しようとする意欲と、問題に直面したときに諦めない意志。

[成績評価方法]

随時行われる試験や授業内で指示された提出物により評価する。

[教科書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方・評価方法などの説明
第 2 回	2進数	0と1で表現される数字とその考え方
第 3 回	2のべき乗	2の16乗までの数とその計算方法を覚える
第 4 回	8進数と16進数	2進数と8進数・16進数の関係について学ぶ
第 5 回	2の補数表現	2進数で負の数を表す方法である補数表現を学ぶ
第 6 回	基数変換1	2進数・10進数・16進数を基準に、n進数への相互変換を学ぶ
第 7 回	基数変換2	2進数・10進数・16進数を基準に、n進数への相互変換を学ぶ
第 8 回	単位について	情報業界で使われる単位について学ぶ(2のマイナス12乗～2の12乗)
第 9 回	ベン図とフラグ管理	ベン図を利用して、プログラミングに必要なフラグのON/OFFを学ぶ。
第10回	ネットワーク基礎	ネットワークについての基礎を学ぶ。
第11回	セキュリティ基礎	情報セキュリティについての基礎を学ぶ。
第12回	文字コード・リスト構造	コンピュータ内部で利用される文字コードと、メモリ利用等に必要リスト構造の基礎について学ぶ。
第13回	稼働率と非稼働率・故障率	機器の稼働度合を計算する稼働率について学ぶ(基礎編)
第14回	稼働率と非稼働率・故障率2	機器の稼働度合を計算する稼働率について学ぶ(応用編)
第15回	期末試験	試験を行う。

教 科 目 名	アルゴリズム 1	担当教師名	佐渡 新
	Algorithm 1		
学科・学年・期	情報処理科・1 学年・前期	必選・単位数	必修・3 単位

[授業の目標・方針]

プログラム作成の基本的な考え方を、流れ図や擬似言語を作成することにより修得する。基本的なプログラムの定石を学び、各種プログラムへの応用ができることを目標とする。100問のアルゴリズム作成とトレース技術を学び、国家試験のアルゴリズム問題を解釈するための基礎力を身に付ける。

[履修に必要なこと]

プログラムの読解に必要なトレースを日頃から丁寧に行うことが必要になる。

[成績評価方法]

期末試験の結果等を考慮して評価する

[教科書]

2大シミュレータで学ぶアルゴリズムとデータ構造

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	模擬試験	国家試験の直前であるので、模擬試験を適宜実施する。
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回	入力と出力に関するプログラム	プログラムの基本である入力、計算、出力について正しいプログラムの書き方を身に付ける
第 5 回	繰り返しのプログラム	繰り返しは様々なアルゴリズムの基本である。繰り返すパターンを身に付ける。
第 6 回	繰り返しのプログラム	繰り返しのアルゴリズムのトレースを通じて、繰り返しの動きを身に付ける。
第 7 回	多重ループのプログラム	多重ループは複雑なアルゴリズムでは必ず存在している。多重ループのパターンを学ぶ。
第 8 回	多重ループのプログラム	多重ループのトレースは根気が必要である。トレースする作業を繰り返し実行することで、多重ループの動きを身に付ける。
第 9 回	副プログラムと関数	複雑なアルゴリズムを分割して考える手法に副プログラムと関数がある。その違いについて学習し、その動作を理解する。
第 10 回	副プログラム・関数呼び出しの活用	副プログラム・関数は複数回呼び出されることを考えて書かれることが多い。呼び出す形を学習する。

第11回	論理型の活用	プログラムの結果がYesかNoを表わすためには論理型を使うのが便利である。論理型の戻り値を持つアルゴリズムについて学ぶ
第12回	2次元配列	2次元配列と多重ループは密接な関係にある。2次元配列を扱う典型的なプログラムについて学習する。
第13回	2次元配列	多重ループのプログラムのトレースには多大な根気と努力が必要である。迷うことなくトレースができるまで訓練を続ける。
第14回	文字列操作	文字列をテーマにしたアルゴリズムは多数存在する。基本的な操作について学習する。
第15回	文字列整形	文字列を自由に整形するアルゴリズムは応用範囲が広い。基本的な整形アルゴリズムについて学習する。

教 科 目 名	アルゴリズム 2	担当教師名	佐渡 新
	Algorithm 2		
学科・学年・期	情報処理科・1 学年・後期	必選・単位数	必修・3 単位

[授業の目標・方針]

アルゴリズムの習得に最も重要な手法であるトレースについて学習する。基本パーツとなりうるプログラムを疑似言語で記述し、自ら記述した疑似言語のトレースを行うことでプログラムの動作の基本を詳細に学ぶことを目標とする。

[履修に必要なこと]

前後の関係や積み重ねが大事であるので復習をきちんとしておくこと。

[成績評価方法]

期末試験の結果等を考慮して評価する。

[教科書]

2大シミュレータで学ぶアルゴリズムとデータ構造

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	トレースの手法	本科目で使用するトレースのルール
第 2 回	順次処理	単純なプログラムのトレース
第 3 回	分岐処理	判定のあるプログラムのトレース
第 4 回	繰り返し処理	繰り返しのあるプログラムのトレース
第 5 回	配列	配列を含むプログラムのトレース
第 6 回	2次元配列	2次元配列を含むプログラムのトレース
第 7 回	副プログラムと関数	副プログラム・関数のあるプログラムのトレース
第 8 回	値の返し方・受け取り方	副プログラム・関数への値の返し方と受け取り方
第 9 回	最大値・最小値	最大値・最小値の定番アルゴリズム
第 10 回	数学関数	数学公式の関数の実装について
第 11 回	論理型の利用	論理型を利用した判定について
第 12 回	関数の再利用	関数の再利用について
第 13 回	文字列処理	文字列処理を含む関数のトレース
第 14 回	2次元配列	2次元配列を含む関数のトレース
第 15 回	文字列整形	左寄せ、右寄せ、中央寄せ等の文字列整形

教 科 目 名	修了試験対策	担当教師名	佐渡 新
	Exam completion		
学科・学年・期	情報処理科・1学年・前期	必選・単位数	選択・3単位

[授業の目標・方針]

6月中旬・7月下旬に行われる基本情報技術者試験における午前免除修了試験の対策を行う。修了試験終了後は午後試験午前応用へ向けて午前範囲を対策する。

[履修に必要なこと]

情報技術者試験の合格意欲があり、問題に対してなぜ間違ったのか、どう考えればよかったのか等改善する力を養うための向上心があること。

[成績評価方法]

午前免除修了試験の合格により評価する。

[教科書]

過去問・対策問題を随時用意

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	コンピュータ科学基礎	2進数、アルゴリズムの知識等
第 2 回	ネットワーク技術	ネットワークプロトコル等
第 3 回	システムの構成と方式	稼働率の考え方等
第 4 回	データベース技術	SQLの基本とデータベースの考え方等
第 5 回	セキュリティ	ウイルス対策、不正侵入対策等
第 6 回	システムの開発と運用	工程管理、開発モデル、障害対応等
第 7 回	テスト・レビューの手法	ブラックボックステスト、ホワイトボックステスト等
第 8 回	ハードウェア	CPU、キャッシュ、外部装置等
第 9 回	ソフトウェア	OS、仮想記憶等
第10回	標準化	ISO標準化等
第11回	情報化と経営・監査	経営戦略とOR手法等
第12回	午前応用演習	ハードウェア関連問題
第13回	午前応用演習	ソフトウェア関連問題
第14回	午前応用演習	データベース関連問題
第15回	午前応用演習	ネットワーク関連問題

教 科 目 名	国家資格対策 1	担当教師名	佐渡 新
	National Government Examination 1		
学科・学年・期	情報処理科・1 学年・後期	必選・単位数	選択・3 単位

[授業の目標・方針]

国家試験である情報技術者試験の午後分野すべての基本となるアルゴリズムに特化し、論理的な考え方やアルゴリズムの方式を学び、合格水準まで知識を引き伸ばすことを目的とする。

[履修に必要なこと]

情報技術者試験への受験意欲がある。

[成績評価方法]

期末試験と提出課題によって評価する。

[教科書]

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、評価方法や学習の目的など
第 2 回	フローチャート 1	フローチャートの基礎、判定、繰り返し、データの入出力
第 3 回	フローチャート 2	前回の復習、カウント処理、最大値と最小値を求めるアルゴリズム
第 4 回	フローチャート 3	前回の復習、基礎アルゴリズムをフローチャートでトレース
第 5 回	フローチャート 4	前回の復習、配列処理の基礎、添字について
第 6 回	フローチャート 5	フローチャート 1～4 の復習
第 7 回	擬似言語 1	擬似言語の記述形式について、線形探索
第 8 回	擬似言語 2	前回の復習、番兵を用いた線形探索、2分探索
第 9 回	擬似言語 3	前回の復習、擬似言語で配列を用いたアルゴリズムの作成、選択法、交換法
第 10 回	擬似言語 4	前回の復習、擬似言語で配列を用いたアルゴリズムの作成、挿入法
第 11 回	擬似言語 5	前回の復習、高速整列アルゴリズムの学習、シェルソート、マージソート
第 12 回	擬似言語 6	前回の復習、高速整列アルゴリズムの学習、ヒープソート、クイックソート
第 13 回	擬似言語 7	前回の復習、文字列探索、圧縮処理
第 14 回	擬似言語 8	擬似言語 1～7 の復習
第 15 回	期末試験	期末試験

教 科 目 名	国家資格対策 2	担当教師名	小川 昌宏
	National Government Examination 2		
学科・学年・期	情報処理科・1 学年・後期	必選・単位数	必修・3 単位

[授業の目標・方針]

国家試験である情報技術者試験の午後分野に特化し、合格水準まで知識を引き伸ばすことを目的とする。また、過去問題を分野別を実施し、各分野の理解度を深める。

[履修に必要なこと]

情報技術者試験への受験意欲がある。

[成績評価方法]

模擬試験結果等で評価する。

[教科書]

プリントを適宜配布

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	授業の位置づけ・受験攻略法
第 2 回	ネットワーク	IP アドレスの管理
第 3 回	ネットワーク	サブネットマスクなど
第 4 回	セキュリティ	共通鍵暗号化方式、公開鍵暗号化方式
第 5 回	セキュリティ	盗聴、改ざん、なりすまし、電子証明書
第 6 回	ハードウェア	浮動小数点 (符号部、指数部、仮数部)
第 7 回	ハードウェア	A/D 変換 (標準化、量子化、符号化)
第 8 回	ソフトウェア設計	オブジェクト図、クラス図
第 9 回	データベース	テーブル構成、正規化など
第 10 回	データベース	SQL 文の基礎 (SELECT 文)
第 11 回	データベース	SQL 文の応用 (テーブルの結合、抽出)
第 12 回	データベース	SQL 文の応用 (INSERT, UPDATE, DELETE)
第 13 回	アルゴリズム	数式処理
第 14 回	アルゴリズム	配列処理
第 15 回	アルゴリズム	メソッドの戻り値と引数

教 科 目 名	プログラミング言語 1	担当教師名	小川 昌宏
	Programming Language 1		
学科・学年・期	情報処理科・1 学年・前期	必選・単位数	必修・3 単位

[授業の目標・方針]

基本情報技術者試験に合格すべく授業を行う。  
本講座では午後のポイントであるCASLについて講義をする。

[履修に必要なこと]

試験まで持続できる強い意志が必要である。

[成績評価方法]

期末試験の結果を考慮して評価する

[教科書]

基数変換のテキスト オリジナル、CASLのテキスト オリジナル、基本問題プリント

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	基数変換 1	2 進数と 1 0 進数
第 2 回	基数変換 2	2 進数と 1 6 進数
第 3 回	基数変換 3	負の表現 (2 の補数表現)
第 4 回	基数変換 4	2 進数と文字コード
第 5 回	CASL 基礎 1	CASL 概要 CASL の命令
第 6 回	CASL 基礎 2	エリア定義 命令分岐
第 7 回	CASL 基礎 3	繰り返し制御構造
第 8 回	基本問題 1	大小比較 数値文字コード変換 乗算 除算 配列データの総和・最大・最小 データ追加 偶数データ取出し 奇数データカウント
第 9 回	基本問題 2	2 進数出力 8 進数出力 1 0 進数出力 1 6 進数出力 秒データ変換 金種計算 2 進入力 1 0 進入力 1 6 進入力
第 1 0 回	基本問題 3	文字数カウント 文字列コピー 文字列比較 小文字大文字変換 文字列連結 文字検索
第 1 1 回	基本問題 4	ビットカウント・リセット 偶数パリティ 倍語長算術右シフト データ圧縮
第 1 2 回	基本問題 5	BCDコード 度数分布 グラフ パラメータテーブル マスクパターン
第 1 3 回	基本問題 6	チェックディジット ゼロサプレス 成績順位 マージ 多分岐 ゼロクリア バイナリーサーチ
第 1 4 回	基本問題 7	リスト 小数第 1 位の商 単位行列 ビット乗算 ソート ネットワークアドレスとホストアドレ ス BCDコードの加算 解凍
第 1 5 回	期末試験	期末試験

教 科 目 名	プログラミング言語2	担当教師名	小川 昌宏
	Programming Language 2		
学科・学年・期	情報処理科・1学年・後期	必選・単位数	必修・1.5単位

[授業の目標・方針]

基本情報技術者試験に合格すべく授業を行う。  
本講座では午後のポイントであるCASLについて講義をする。

[履修に必要なこと]

試験まで持続できる強い意志が必要である。

[成績評価方法]

期末試験の結果を考慮して評価する

[教科書]

[参考書]

中級問題プリント

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	中級問題 1	右詰め 最大最小
第 2 回	中級問題 2	データカウント 絶対値の総和
第 3 回	中級問題 3	データ圧縮 偶数パリティ
第 4 回	中級問題 4	パリティビット付加 パリティチェック
第 5 回	中級問題 5	ビットカウント パリティビットを求める
第 6 回	中級問題 6	文字コードへのパリティ付加 2進文字入力
第 7 回	中級問題 7	10進文字→2進 16進文字→2進
第 8 回	中級問題 8	配列内ビットカウント 2進文字→2進
第 9 回	中級問題 9	10進文字列→2進① 2進→2進文字列
第10回	中級問題 10	10進文字列→2進② 年月日圧縮
第11回	中級問題 11	利用者識別コードチェック
第12回	まとめ 1	総合問題 1
第13回	まとめ 2	総合問題 2
第14回	まとめ 3	総合問題 3
第15回	期末試験	期末試験

教 科 目 名	アルゴリズム演習 1	担当教師名	佐渡 新
	Algorithm Practice 1		
学科・学年・期	情報処理科・1 学年・前期	必選・単位数	必修・1.5 単位

[授業の目標・方針]

アルゴリズム 1 と連携し、フローチャート・疑似言語シミュレータを用いてアルゴリズムの理解を深めていく。

[履修に必要なこと]

プログラムの読解に必要なトレースを日頃から丁寧に行うことが必要になる。

[成績評価方法]

期末試験の結果等を考慮して評価する

[教科書]

2 大シミュレータで学ぶアルゴリズムとデータ構造

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	模擬試験	国家試験の直前であるので、模擬試験を適宜実施する。
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回	入力と出力に関するプログラム	プログラムの基本である入力、計算、出力について正しいプログラムの書き方を身に付ける
第 5 回	繰り返しのプログラム	繰り返しは様々なアルゴリズムの基本である。繰り返すパターンを身に付ける。
第 6 回	繰り返しのプログラム	繰り返しのアルゴリズムのトレースを通じて、繰り返しの動きを身に付ける。
第 7 回	多重ループのプログラム	多重ループは複雑なアルゴリズムでは必ず存在している。多重ループのパターンを学ぶ。
第 8 回	多重ループのプログラム	多重ループのトレースは根気が必要である。トレースする作業を繰り返し実行することで、多重ループの動きを身に付ける。
第 9 回	副プログラムと関数	複雑なアルゴリズムを分割して考える手法に副プログラムと関数がある。その違いについて学習し、その動作を理解する。
第 10 回	副プログラム・関数呼び出しの活用	副プログラム・関数は複数回呼び出されることを考えて書かれることが多い。呼び出す形を学習する。
第 11 回	論理型の活用	プログラムの結果が Yes か No を表わすためには論理型を使うのが便利である。論理型の戻り値を持つアルゴリズムについて学ぶ

第12回	2次元配列	2次元配列と多重ループは密接な関係にある。2次元配列を扱う典型的なプログラムについて学習する。
第13回	2次元配列	多重ループのプログラムのトレースには多大な根気と努力が必要である。迷うことなくトレースができるまで訓練を続ける。
第14回	文字列操作	文字列をテーマにしたアルゴリズムは多数存在する。基本的な操作について学習する。
第15回	文字列整形	文字列を自由に整形するアルゴリズムは応用範囲が広い。基本的な整形アルゴリズムについて学習する。

教 科 目 名	アルゴリズム演習 2	担当教師名	佐渡 新
	Algorithm Practice 2		
学科・学年・期	情報処理科・1 学年・後期	必選・単位数	必修・1.5 単位

[授業の目標・方針]

アルゴリズムの習得における最重要であるトレース技術について学ぶ。初めて見るアルゴリズムであってもトレースを用いることにより動作を理解できることを知る。

[履修に必要なこと]

疑似言語の文法については理解していること。

[成績評価方法]

課題進行の度合いにより評価する

[教科書]

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	第 1 問～第 1 0 問	変数の代入に関するトレース
第 2 回	第 1 1 問～第 2 0 問	最大値、最小値、繰り返し
第 3 回	第 2 0 問～第 2 5 問	1 次元配列
第 4 回	第 2 6 問～第 3 0 問	基礎的な 2 次元配列
第 5 回	第 3 1 問～第 4 0 問	副プログラムと関数
第 6 回	第 4 1 問～第 4 5 問	副プログラムと関数
第 7 回	第 4 6 問～第 5 0 問	副プログラムと関数
第 8 回	第 5 1 問～第 5 5 問	終端文字のある配列
第 9 回	第 5 6 問～第 6 0 問	1 次元配列の応用
第 1 0 回	第 6 1 問～第 6 5 問	配列のずらしこみ
第 1 1 回	第 6 6 問～第 7 0 問	2 次元配列での集計
第 1 2 回	第 7 0 問～第 7 5 問	2 次元配列のデータ加工
第 1 3 回	第 7 6 問～第 8 0 問	文字列操作
第 1 4 回	第 8 1 問～第 8 5 問	文字列操作
第 1 5 回	第 8 6 問～第 1 0 0 問	応用的なプログラム

教 科 目 名	Java1	担当教師名	佐藤 幸夫
	Java 1		
学科・学年・期	情報処理科・1学年・後期	必選・単位数	必修・3単位

[授業の目標・方針]

Java プログラムの作成の基本を学ぶ。

[履修に必要なこと]

Java 言語を学ぼうする意志があり、努力が出来ること。

[成績評価方法]

期末試験の結果と課題演習等を考慮して評価する。

[教科書]

やさしいJava 高橋麻奈 SoftbankCreative

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	Java の概要、使い方	Java コンパイラのしくみとプログラムの実行
第 2 回	Java の基本	画面への出力、文字と数値
第 3 回	変数	変数の仕組み、変数の型
第 4 回	変数	キーボードからの入力
第 5 回	式と演算子	式の仕組み、いろいろな演算子
第 6 回	式と演算子	演算子の優先順位、型変換
第 7 回	条件分岐	関係演算子と条件の仕組み
第 8 回	条件分岐	if 文の基本、if ~ else 文の基本
第 9 回	条件分岐	switch 文の基本
第 10 回	条件分岐	論理演算子を利用した複雑な条件分岐
第 11 回	繰り返し	for 文の基本
第 12 回	繰り返し	while 文の基本・do~while 文の基本
第 13 回	繰り返し	ネストした繰り返し
第 14 回	繰り返し	continue、break を使用した繰り返し制御
第 15 回	配列	配列の宣言

教 科 目 名	SQL 入門	担当教師名	石塚 哲也
	Structured Query Language Practice		
学科・学年・期	情報処理科・1 学年・後期	必選・単位数	必修・3 単位

[授業の目標・方針]

データベースを利用する上で避けて通ることの出来ない SQL についての知識を学ぶ。  
この授業では、Oracle Master Bronze SQL を取得、もしくは同等の能力を身に付けることを目標とする。

[履修に必要なこと]

今まで学んだデータベースについての知識を利用できること。  
英単語が多く出てくるが、その英単語を読もうとする努力が出来ること。

[成績評価方法]

期末試験で評価する。

[教科書]

Bronze Oracle Database 11g SQL 基礎 I 編 林 優子 翔泳社

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方・評価・目標
第 2 回	第 1 章	リレーショナルデータベース
第 3 回	第 2 章	SQL の SELECT 文を使用したデータの取得
第 4 回	第 3 章	データの制限およびソート
第 5 回	第 4 章	単一行関数を使用した出力のカスタマイズ
第 6 回	第 5 章	変換関数と条件式の使用法
第 7 回	第 6 章	グループ関数を使用した集計データレポート
第 8 回	第 7 章	複数の表からのデータの表示
第 9 回	第 8 章	副問い合わせを使用した問い合わせの解決
第 10 回	第 9 章	集合演算子の使用法
第 11 回	第 10 章	データの操作
第 12 回	第 11 章	表の作成と管理
第 13 回	第 12 章	表以外のスキーマオブジェクトの作成と管理
第 14 回	第 13 章	高度な副問い合わせ
第 15 回	期末試験	期末試験

教 科 目 名	インターンシップ 1	担当教師名	石塚 哲也
	Internship 1		
学科・学年・期	情報処理科・1 学年・後期	必選・単位数	選択・2 単位

[授業の目標・方針]

実際の職場での業務を行うことで、実際の職場の実体験として学習する。職場での業務と日頃学んで来た知識の違いを体験し、学んできた内容をどのように生かして行くのかを応用する力を鍛えることを目的とする。

[履修に必要なこと]

社会人としてのマナーを身につけている事。

[成績評価方法]

受け入れ先の評価、レポート等で評価する。

[教科書]

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	スケジュールの確認等
第 2 回	概要説明	実習先の概要について調査します
第 3 回	心構え	実習先での行動の注意点について学習します
第 4 回	インターンシップ	職場で実習をします
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回	報告会準備	報告の準備を行います
第 15 回	報告会	報告会を行います

教 科 目 名	情報技術研究 1	担当教師名	引地 小川 佐藤 石塚 佐渡
	Information Technology Research 1		
学科・学年・期	情報処理科・2 学年・前期	必選・単位数	必修・6 単位

[授業の目標・方針]

専攻毎に卒業研究に向けた実習・技術調査を行い、知識・技術について理解を深めることを目的に学習する。

[履修に必要なこと]

1 年次後期の「言語研究」の内容を理解していること。

[成績評価方法]

レポート等で評価する。

[教科書]

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方・評価方法などの説明
第 2 回	アクティブラーニング	専攻毎に卒業研究に必要な技術・知識の調査を行い、レポートを作成する。
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		
第 15 回		

教 科 目 名	情報技術研究 2	担当教師名	引地 小川 佐藤 石塚 佐渡
	Information Technology Research 2		
学科・学年・期	情報処理科・2 学年・前期	必選・単位数	選択・3 単位

[授業の目標・方針]

専攻毎に卒業研究と並行して、情報技術研究 1 で培った知識・技術を磨き上げることを目的に学習する。

[履修に必要なこと]

2 年次前期の「情報技術研究 1」の内容を理解していること。

[成績評価方法]

[教科書]

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方・評価方法などの説明
第 2 回	アクティブラーニング	専攻毎に卒業研究に必要な技術・知識の調査を行い、レポートを作成する。
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		
第 15 回		

教 科 目 名	アルゴリズム 3	担当教師名	佐渡 新
	Algorithm 3		
学科・学年・期	情報処理科・2学年・前期	必選・単位数	選択・3単位

[授業の目標・方針]

国家試験に出題される擬似言語を通じて、様々なアルゴリズムとデータ構造について学習する。擬似言語は国家試験対策のためだけではなく、C言語、Java等、様々なコンピュータ言語でプログラムを書くための基本的な要素が含まれている。データの整列と探索、再帰、データ構造等、コンピュータ応用分野で幅広く使われるアルゴリズムを、問題演習により学習する。

[履修に必要なこと]

前後の関係や積み重ねが大事であるので復習をきちんとしておくこと。

[成績評価方法]

レポート提出等を考慮して評価する

[教科書]

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	文字列照合 (BM法)	BM (ボイヤムア) 法と単純探索の性能の違い
第 2 回	文字列圧縮 (ランレングス法)	圧縮率の高くなる場合と圧縮効果が得られない場合
第 3 回	2分探索木の操作	挿入削除における高速性について
第 4 回	ハッシュ法 (オープンアドレス法)	探索時間の評価
第 5 回	マージソート	高速な安定ソートであるが、作業領域について考察
第 6 回	クイックソート	計算量やソートされる過程について
第 7 回	順位づけ配列	度数を利用する順位づけの仕組み
第 8 回	配列の要素を更新するプログラム	実行時間を改善した配列要素の更新
第 9 回	実数計算における誤差	誤差を少なくするための計算方法
第 10 回	ISBNコードチェック	計算式の規則性を利用したアルゴリズム
第 11 回	1/n を正確に求める	手計算の過程からアルゴリズムに変換する
第 12 回	逆ポーランド表記からの計算	スタックを利用したアルゴリズム

第13回	式の値を計算する (BN F 記法)	数式の解析アルゴリズム
第14回	文字列をバイナリ形式 美変換	処理の規則性を見つける
第15回	素数を求める手順	代表的な数学的な手法を実装する

教 科 目 名	ネットワーク構築	担当教師名	佐渡 新
	Network construction		
学科・学年・期	情報処理科・2学年・後期	必選・単位数	選択・1.5単位

[授業の目標・方針]

これまで学んできたネットワークの知識を実際に生かせるように、パケットキャプチャで解析することでネットワーク上にデータが流れる仕組みを理解します。また、実際のネットワーク機器の設定を行うことでさらに理解を深めます。

[履修に必要なこと]

コンピュータの仕組み、ネットワークの基礎的な知識は既に習得しているものとする。

[成績評価方法]

実習、期末試験の結果に応じて評価する。

[教科書]

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	パケットキャプチャ	パケットキャプチャの方法を学びます
第 2 回	OSI の7階層モデル	ネットワークの7階層モデルについて学びます
第 3 回	ネットワークケーブル	ツイストペアケーブルを用いて実際にネットワークケーブルを作成し、配線を確認します。
第 4 回	L2 ヘッダ	L2 ヘッダに含まれる情報を学びます
第 5 回	L3 ヘッダ	L3 ヘッダに含まれる情報を学びます。
第 6 回	3Way ハンドシェイク	3WAY ハンドシェイクのやりとりをパケットキャプチャで確認します。
第 7 回	パケットキャプチャ	ICMP の解析
第 8 回	パケットキャプチャ	ARP の解析
第 9 回	パケットキャプチャ	DHCP の解析
第 10 回	パケットキャプチャ	http の解析
第 11 回	CISCO ネットワーク機器の設定	基本的なコマンド操作を学びます。
第 12 回	リピータ HUB とスイッチング HUB	パケットキャプチャを通じて、リピータ HUB とスイッチング HUB の違いを学びます。
第 13 回	ルータの設定1	異なる2つのネットワークを1台のルータで接続する方法について学びます
第 14 回	ルータの設定2	異なる3つのネットワークを2台のルータで静的な接続する方法について学びます

第15回	ルータの設定3	異なる3つのネットワークを2台のルータで動的な接続する方法について学びます
------	---------	---------------------------------------

教 科 目 名	ネットワークセキュリティ	担当教師名	佐渡 新
	Network Security		
学科・学年・期	情報処理科・2学年・前期	必選・単位数	必修・3単位

[授業の目標・方針]

現代社会においてはネットワークとセキュリティについての知識を持つことの重要性が増している。ネットワークの仕組みの技術面から人的なセキュリティモラルも含めて身に付けることが本科目の目的である。

[履修に必要なこと]

技術面では最低限2進数の知識は必要である。

[成績評価方法]

期末試験の結果に応じて評価する。

[教科書]

インターネット検定 .com Master ADVANCE 公式テキスト NTT 出版

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	インターネットへの接続	インターネットの仕組み
第 2 回		インターネットの接続方法
第 3 回	問題演習	
第 4 回	インターネットの活用	Web ブラウザの利用
第 5 回		メールの利用
第 6 回		SNS の利用
第 7 回		様々なインターネットサービス
第 8 回		トラブルの基本対処
第 9 回	問題演習	
第 10 回	インターネットの安全性・モラル	インターネット上のマナーと情報の取り扱い
第 11 回		インターネット社会の安全性
第 12 回		自分のパソコンを守る
第 13 回		インターネットを取り巻く法律
第 14 回	問題演習	
第 15 回	期末試験	

教 科 目 名	Java2	担当教師名	佐藤 幸夫
	Java 2		
学科・学年・期	情報処理科・2学年・前期	必選・単位数	選択・1.5単位

[授業の目標・方針]

「Java1」で学んだことを活かし、より応用的な Java プログラムの作成について学ぶ。

[履修に必要なこと]

「Java1」の内容を理解していること。

[成績評価方法]

期末試験の結果と課題演習等を考慮して評価する。

[教科書]

やさしいJava 高橋麻奈 SoftbankCreative

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	配列	1次元配列、2次元配列の宣言と利用
第 2 回	配列	多次元配列の宣言と利用
第 3 回	配列	配列の応用①
第 4 回	クラスの基本	クラスの宣言とオブジェクトの作成①
第 5 回	クラスの基本	クラスの宣言とオブジェクトの作成②
第 6 回	クラスの基本	クラスを利用するプログラム
第 7 回	クラスの基本	複数のクラスファイルの作成
第 8 回	クラスの基本	メソッドの基本
第 9 回	クラスの基本	引数を持つメソッド
第 10 回	クラスの基本	メソッドの戻り値
第 11 回	クラスの機能	メンバとアクセス制限
第 12 回	クラスの機能	メソッドのオーバーロード
第 13 回	クラスの機能	コンストラクタ
第 14 回	クラスの機能	コンストラクタのオーバーロード
第 15 回	クラスの機能	クラス変数、クラスメソッド

教 科 目 名	オブジェクト指向プログラミング	担当教師名	佐藤 幸夫
	Object Oriented Programming		
学科・学年・期	情報処理科・2学年・後期	必選・単位数	選択・1.5単位

[授業の目標・方針]

オブジェクト指向を中心として、Javaプログラムの応用を学ぶ。

[履修に必要なこと]

「Java1」「Java2」の内容を理解していること。

[成績評価方法]

期末試験の結果と課題演習等を考慮して評価する。

[教科書]

やさしいJava 高橋麻奈 SoftbankCreative

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	クラスの利用	クラスライブラリの利用
第 2 回	クラスの利用	ラッパークラス
第 3 回	例外	例外の基本、例外とクラス、例外の送付
第 4 回	入出力処理	ストリームの仕組み、ファイルの入出力
第 5 回	入出力処理	コマンドライン引数
第 6 回	新しいクラス	継承①
第 7 回	新しいクラス	継承②
第 8 回	新しいクラス	オーバーライド、メンバへのアクセス
第 9 回	インターフェイス	抽象クラス
第 10 回	インターフェイス	インターフェイスのしくみ
第 11 回	スレッド	スレッドの基本、スレッドの操作
第 12 回	スレッド	スレッドの作成方法
第 13 回	スレッド	同期
第 14 回	大きなプログラムの作成	ファイルの分割、パッケージの基本
第 15 回	大きなプログラムの作成	パッケージの利用、インポート

教 科 目 名	データベース設計	担当教師名	石塚 哲也
	Database Design		
学科・学年・期	情報処理科・2学年・前期	必選・単位数	選択・1.5単位

[授業の目標・方針]

SQL入門で学んだデータベースの基本を生かし、実際の業務システム内で使用されるデータベースの設計を行う。

[履修に必要なこと]

今まで学んだデータベースについての知識を利用できること。  
プロジェクト単位で活動するため、積極的にコミュニケーションを取ろうとすること。  
設計したシステムを発表するプレゼンテーション制作・発表に積極的に参加すること。

[成績評価方法]

作成したデータベースの内容、データベース設計、プレゼン内容で評価する。

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要説明・グループ分け・Oracleユーザーの作成など
第 2 回	電話帳システム データベース設計 1	グループごとに携帯電話の電話帳システムを分析し、データ格納に必要なテーブル設計を行う。
第 3 回	電話帳システム データベース設計 2	グループごとに携帯電話の電話帳システムを分析し、データ格納に必要なテーブル設計を行う。
第 4 回	電話帳システム データベース設計 3	グループごとに携帯電話の電話帳システムを分析し、データ格納に必要なテーブル設計を行う。
第 5 回	電話帳システム データベース設計 4	設計発表会・評価（中間試験 1 扱い）
第 6 回	受発注システム データベース設計 1	グループごとにとある製品を取り扱う模擬会社を立ち上げ、その会社の受発注システムに必要なデータベースの設計を行う。
第 7 回	受発注システム データベース設計 2	グループごとにとある製品を取り扱う模擬会社を立ち上げ、その会社の受発注システムに必要なデータベースの設計を行う。
第 8 回	受発注システム データベース設計 3	グループごとにとある製品を取り扱う模擬会社を立ち上げ、その会社の受発注システムに必要なデータベースの設計を行う。
第 9 回	受発注システム データベース設計 4	グループごとにとある製品を取り扱う模擬会社を立ち上げ、その会社の受発注システムに必要なデータベースの設計を行う。

第10回	受発注システム データベース設計5	設計発表会・評価（中間試験2扱い）
第11回	データベース設計（テーマ自由）1	グループごとに自由なテーマでシステムを作成し、その際に必要なデータベースの設計を行う。
第12回	データベース設計（テーマ自由）2	グループごとに自由なテーマでシステムを作成し、その際に必要なデータベースの設計を行う。
第13回	データベース設計（テーマ自由）3	グループごとに自由なテーマでシステムを作成し、その際に必要なデータベースの設計を行う。
第14回	データベース設計（テーマ自由）4	グループごとに自由なテーマでシステムを作成し、その際に必要なデータベースの設計を行う。
第15回	データベース設計（テーマ自由）5	設計発表会・評価（期末試験扱い）

教 科 目 名	システム開発の基礎	担当教師名	引地 政征
	System Development Foundation		
学科・学年・期	情報処理科・2学年・前期	必選・単位数	選択・3単位

[授業の目標・方針]

昨今のシステム設計に必要とされてきているUMLについて学ぶ。

[履修に必要なこと]

オブジェクト指向について、さらに深く学ぶ意欲がある事。

システム設計について、国家試験等で学んできた内容を理解している事。

[成績評価方法]

期末試験の結果にて評価する。

[教科書]

かんたんUML入門 技術評論社発行

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、学ぶ必要性について、評価方法や昨今のシステム設計についての説明
第 2 回	オブジェクト指向とUML	オブジェクト指向の基本形から考え方、様々な表記図とUMLの基本について学ぶ。
第 3 回	開発プロセス	ウォーターフォール型、スパイラル型、反復型などの開発プロセスについて学ぶ。
第 4 回	ユースケース図	システムをどう使うか、利用者視点で考えたものを図にするユースケース図について学ぶ。
第 5 回	オブジェクト図	オブジェクト指向の基幹であるオブジェクトがどのように連携しているかを表す図について学ぶ。
第 6 回	クラス図	クラスとオブジェクトによる「型」と「実体」の関係を表す図について学ぶ。
第 7 回	シーケンス図	システム構成の相互作用について、時間軸に沿った形で表すシーケンス図について学ぶ。
第 8 回	コミュニケーション図	システム構成の相互作用について、つながりを強調して書くことに重点を置いたコミュニケーション図について学ぶ。
第 9 回	ステートマシン図	状態と遷移が重要なシステムにとって強力な道具となるステートマシン図について学ぶ。
第10回	アクティビティ図	UMLにおいて制御フローを表現する図であるアクティビティ図について学ぶ。

第11回	パッケージ図	システムの構造を俯瞰的に可視化するパッケージ図について学ぶ。
第12回	サブの図	コンポーネント図、配置図、合成構造図、タイミング図、相互作用概要図について学ぶ。
第13回	実践例1	実際のビジネス系システムをケーススタディとして学ぶ。
第14回	実践例2	実際の組み込み系システムをケーススタディとして学ぶ。
第15回	期末試験	期末試験を行う。

教 科 目 名	システム構築	担当教師名	佐渡 新
	System Architecture		
学科・学年・期	情報処理科・2学年・後期	必選・単位数	選択・1.5単位

[授業の目標・方針]

実際の業務でサーバとして利用されることの多いLinuxについて学ぶ。

[履修に必要なこと]

コマンドライン重視の操作について学ぼうとする意欲がある事。  
触れたことの無いOSに触れ、自ら学ぼうと出来る事。

[成績評価方法]

環境構築の出来具合や成果物、期末試験によって評価する。

[教科書]

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	Linuxについて、授業の進め方・評価方法などの説明
第 2 回	プログラムのインストール	Linuxプログラムのインストールを行う。
第 3 回	プロセス	Linuxで動作しているプロセスについて学ぶ。
第 4 回	ファイルシステム	Linuxで利用されているファイルシステムについて学ぶ。
第 5 回	シェル	シェルの機能やシェルスクリプトについて学ぶ。
第 6 回	エディタ	Linuxで利用できるテキストエディタについて学ぶ。
第 7 回	GUI	Linuxで利用出来るGUIについて学ぶ。
第 8 回	ネットワーク	Linuxのネットワーク機能、サーバ機能、ネットワークトラブルの解決について学ぶ。
第 9 回	スーパーユーザーの役割	Linuxでのスーパーユーザーの役割等について学ぶ。
第10回	セキュリティ	Linuxサーバのセキュリティについて学ぶ。
第11回	Linuxサーバ構築 1	LinuxとWebサーバ機能、データベース機能を持たせたサーバを構築するグループの作成と進め方の計画

第12回	L i n u xサーバ構築 2	L i n u xサーバ構築作業
第13回	L i n u xサーバ構築 3	L i n u xサーバ構築作業
第14回	L i n u xサーバ構築 4	L i n u xサーバ構築作業
第15回	L i n u xサーバ構築 5	グループごとに構築したサーバを評価する

教 科 目 名	モバイルアプリケーション開発	担当教師名	佐渡 新
	Mobile Application Development		
学科・学年・期	情報処理科・2学年・後期	必選・単位数	選択・1.5単位

[授業の目標・方針]

近年急速に普及してきたスマートフォンやタブレット端末のソフト開発について学ぶ。

[履修に必要なこと]

アプリケーションの環境構築・開発・デバッグ等に対する興味があり、自発的に学ぼうとする意欲があること。また、サンプルを作成するだけでなく、自分でプログラムを変更し、工夫しようとする出来ること。

[成績評価方法]

作成したアプリケーションの出来について評価する。

[教科書]

Android SDK 4 / 3 / 2 対応 プログラミングバイブル

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容、成績の付け方等説明
第 2 回	インストール1	JDK、Eclipseのインストール
第 3 回	インストール2	ADT、Android SDKのインストール
第 4 回	アプリ作成実習1	「Hello, World!」アプリの作成
第 5 回	アプリ作成実習2	文字列描画プログラムの作成
第 6 回	アプリ作成実習3	図形の描画プログラムの構成
第 7 回	アプリ作成実習4	イメージの描画プログラムの作成
第 8 回	アプリ作成実習5	キーイベント処理プログラムの作成
第 9 回	アプリ作成実習6	タッチイベント処理プログラムの作成
第10回	アプリ作成実習7	ジェスチャーイベント処理プログラムの作成
第11回	アプリ作成実習8	サーフェイスビュープログラムの作成
第12回	アプリ作成実習9	テキストビューとイメージビューを利用するプログラムの作成
第13回	アプリ作成実習10	ユーザーインタフェースプログラムの作成1
第14回	アプリ作成実習11	ユーザーインタフェースプログラムの作成2
第15回	アプリ作成実習12	ユーザーインタフェースプログラムの作成3

教 科 目 名	W e bアプリケーション開発	担当教師名	引地 政征
	Web Application Development		
学科・学年・期	情報処理科・2学年・後期	必選・単位数	選択・1.5単位

[授業の目標・方針]

WWW(ホームページ)作成の応用的な能力、技術を養うことを目標とする。

これまでのWWW(ホームページ)作成の技術を土台に、W e bアプリケーション開発で広く利用されるPHPについての知識を深める。

[履修に必要なこと]

W e bアプリケーションに興味を持ち、自ら学ぼうとする能力と、うまく動作しなかった際にデバッグや原因の探求を楽しもうと出来ること。

[成績評価方法]

各章ごとの課題による総合評価。

[教科書]

初めてのPHP、MySQL、JavaScript & CSS 第2版

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	インストール	PCへのPHP動作環境のインストール
第 2 回	基本構文	文字列・HTMLの表示サンプルの作成
第 3 回	フォーム	フォームの要素・データのチェック等を行うサンプルの作成
第 4 回	変数/定数	変数の定義・使用を行うサンプルの作成
第 5 回	文字列	文字列の結合・変換・出力を行うサンプルの作成
第 6 回	日付	現在日付の取得・日付の計算を行うサンプルの作成
第 7 回	配列	配列の利用を行うサンプルの作成
第 8 回	ファイル	ファイルの読み取り・書き込み・属性の変更等を行うサンプルの作成
第 9 回	各種ファイルとの連携	PDF・XML・画像ファイル等を利用するサンプルの作成
第10回	ディレクトリ	ディレクトリの作成等を行うサンプルの作成
第11回	クラス	クラスの使用に関するサンプルの作成
第12回	セッション/クッキー	セッション管理・クッキーを利用するサンプルの作成
第13回	処理制御	処理の終了・エラー処理等のサンプルの作成
第14回	データベース	データベースを利用するサンプルの作成
第15回	アプリケーション	アプリケーションサンプルの作成

教 科 目 名	エンベデッドプログラミング	担当教師名	石塚 哲也
	Embedded Programming		
学科・学年・期	情報処理科・2学年・後期	必選・単位数	選択・1.5単位

[授業の目標・方針]

エンベデッド技術とは産業機器や家電に内蔵して動作させるための技術である。本講義では、その題材としてマインドストームで作成した倒立2輪のロボットに自立制御をさせるためのプログラムの設計から製作までを行い、組込み技術の基礎を学ぶ。

[履修に必要なこと]

これまで学んできたプログラミングの知識を利用。  
設計にはUMLを活用する。

[成績評価方法]

設計と実装の成果物を評価に用いる

[教科書]

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	環境構築	成果物の製作に必要な環境を構築する
第 2 回	ハードウェア組立	ロボットを組み立てて、動作を確認する
第 3 回	モデリング	実現したい機能をモデリングの考え方を使って整理する方法について学びます。
第 4 回	要求分析	与えられた問題から、要求を抽出することで開発する機能を洗い出す。
第 5 回	基本設計	機能から、どのような構成で実現するかを検討し、設計書を作成する。
第 6 回		
第 7 回	詳細設計	基本設計で明らかになった機能を、プログラム言語で実現する具体的な構造をクラス図等使って表現する。
第 8 回		
第 9 回	要素技術 1	PID 制御でスムーズな動作を実現する
第 10 回	要素技術 2	自己位置推定でおおよそのロボットの位置を推測する。
第 11 回	プロジェクト	あたえられたテーマに沿ったプロジェクトについて設計から実装・テストまでを遂行する。
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		
第 15 回		

教 科 目 名	専攻ゼミナールA	担当教師名	引地 小川 佐藤 石塚 佐渡
	Major seminar A		
学科・学年・期	情報処理科・2学年・前期	必選・単位数	選択・1.5単位

[授業の目標・方針]

専攻ゼミナール B と連携し、専攻毎にゼミ形式による授業を行い、卒業研究で必要となる知識・技術を目的に学習を行う。

[履修に必要なこと]

1年次後期の「言語研究」の内容を理解していること。

[成績評価方法]

レポート等で評価する。

[教科書]

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方・評価方法などの説明
第 2 回	ゼミ 1 回目	ゼミの実施、レポートの作成を行う。
第 3 回	ゼミ 2 回目	
第 4 回	ゼミ 3 回目	
第 5 回	ゼミ 4 回目	
第 6 回	ゼミ 5 回目	
第 7 回	ゼミ 6 回目	
第 8 回	ゼミ 7 回目	
第 9 回	ゼミ 8 回目	
第 10 回	ゼミ 9 回目	
第 11 回	ゼミ 10 回目	
第 12 回	ゼミ 11 回目	
第 13 回	ゼミ 12 回目	
第 14 回	ゼミ 13 回目	
第 15 回	ゼミ 14 回目	

教 科 目 名	専攻ゼミナールB	担当教師名	引地 小川 佐藤 石塚 佐渡
	Major seminar B		
学科・学年・期	情報処理科・2学年・前期	必選・単位数	選択・1.5単位

[授業の目標・方針]

専攻ゼミナール A と連携し、専攻毎にゼミ形式による授業を行い、卒業研究で必要となる知識・技術を目的に学習を行う。

[履修に必要なこと]

1年次後期の「言語研究」の内容を理解していること。

[成績評価方法]

レポート等で評価する。

[教科書]

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方・評価方法などの説明
第 2 回	ゼミ 1 回目	ゼミの実施、レポートの作成を行う。
第 3 回	ゼミ 2 回目	
第 4 回	ゼミ 3 回目	
第 5 回	ゼミ 4 回目	
第 6 回	ゼミ 5 回目	
第 7 回	ゼミ 6 回目	
第 8 回	ゼミ 7 回目	
第 9 回	ゼミ 8 回目	
第 10 回	ゼミ 9 回目	
第 11 回	ゼミ 10 回目	
第 12 回	ゼミ 11 回目	
第 13 回	ゼミ 12 回目	
第 14 回	ゼミ 13 回目	
第 15 回	ゼミ 14 回目	

教 科 目 名	専攻ゼミナールC	担当教師名	引地 小川 佐藤 石塚 佐渡
	Major seminar C		
学科・学年・期	情報処理科・2学年・後期	必選・単位数	選択・1.5単位

[授業の目標・方針]

専攻ゼミナール D と連携し、専攻毎にゼミ形式による授業を行い、卒業研究で必要となる知識・技術を目的に学習を行う。

[履修に必要なこと]

2年次前期の「専攻ゼミナール A」、「専攻ゼミナール B」の内容を理解していること。

[成績評価方法]

レポート等で評価する。

[教科書]

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方・評価方法などの説明
第 2 回	ゼミ 1 回目	ゼミの実施、レポートの作成を行う。
第 3 回	ゼミ 2 回目	
第 4 回	ゼミ 3 回目	
第 5 回	ゼミ 4 回目	
第 6 回	ゼミ 5 回目	
第 7 回	ゼミ 6 回目	
第 8 回	ゼミ 7 回目	
第 9 回	ゼミ 8 回目	
第 10 回	ゼミ 9 回目	
第 11 回	ゼミ 10 回目	
第 12 回	ゼミ 11 回目	
第 13 回	ゼミ 12 回目	
第 14 回	ゼミ 13 回目	
第 15 回	ゼミ 14 回目	

教 科 目 名	専攻ゼミナールD	担当教師名	引地 小川 佐藤 石塚 佐渡
	Major seminar D		
学科・学年・期	情報処理科・2学年・後期	必選・単位数	選択・1.5単位

[授業の目標・方針]

専攻ゼミナール C と連携し、専攻毎にゼミ形式による授業を行い、卒業研究で必要となる知識・技術を目的に学習を行う。

[履修に必要なこと]

2年次前期の「専攻ゼミナール A」、「専攻ゼミナール B」の内容を理解していること。

[成績評価方法]

レポート等で評価する。

[教科書]

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方・評価方法などの説明
第 2 回	ゼミ 1 回目	ゼミの実施、レポートの作成を行う。
第 3 回	ゼミ 2 回目	
第 4 回	ゼミ 3 回目	
第 5 回	ゼミ 4 回目	
第 6 回	ゼミ 5 回目	
第 7 回	ゼミ 6 回目	
第 8 回	ゼミ 7 回目	
第 9 回	ゼミ 8 回目	
第 10 回	ゼミ 9 回目	
第 11 回	ゼミ 10 回目	
第 12 回	ゼミ 11 回目	
第 13 回	ゼミ 12 回目	
第 14 回	ゼミ 13 回目	
第 15 回	ゼミ 14 回目	

教 科 目 名	企業フォーカス	担当教師名	石塚 哲也
	Companies focus		
学科・学年・期	情報処理科・2学年・前期	必選・単位数	選択・1単位

[授業の目標・方針]

企業を研究するとともに、企業からプロをお招きし講演していただくことで、社会人としての広い視野と価値観を醸成する。

[履修に必要なこと]

社会人としてのマナーを身につけている事。

[成績評価方法]

レポート等で評価する。

[教科書]

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	スケジュールの確認等
第 2 回	企業研究 1	講演企業の概要について調査します
第 3 回	プロ講演 1	プロをお招きして講演していただく
第 4 回	企業研究 2	講演企業の概要について調査します
第 5 回	プロ講演 2	プロをお招きして講演していただく
第 6 回	企業研究 3	講演企業の概要について調査します
第 7 回	プロ講演 3	プロをお招きして講演していただく
第 8 回	企業研究 4	講演企業の概要について調査します
第 9 回	プロ講演 4	プロをお招きして講演していただく
第 10 回	企業研究 5	講演企業の概要について調査します
第 11 回	プロ講演 5	プロをお招きして講演していただく
第 12 回	企業研究 6	講演企業の概要について調査します
第 13 回	プロ講演 6	プロをお招きして講演していただく
第 14 回	報告資料作成	報告の準備を行います
第 15 回	報告資料提出	報告資料を提出します

教 科 目 名	卒業研究	担当教師名	引地 小川 佐藤 石塚 佐渡
	Undergraduate Research		
学科・学年・期	情報処理科・2学年・後期	必選・単位数	必修・3単位

[授業の目標・方針]

これまで学んできた技術あるいは、養ってきた能力を土台に、学生・チーム自身が設定したテーマ・課題を解決する能動的資質を培うことを目標とする。

在学2年間の集大成として、学生・チーム自身でテーマ・課題の設定を行い、これまでの技術を基に、みずから考え、試行し、また、必要な技術を習得して、問題の解決を行い作品として完成させる。

[履修に必要なこと]

いままで勉強してきたファイル類・実習結果等を、必要に応じて利用できるようなっていること。

[成績評価方法]

概要発表・中間発表・完成発表と日常の取り組み状況による総合評価。

[教科書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	基本計画	班編成、テーマ決定
第 2 回	要件定義	現状分析とシステムへの要求定義・スコープマネジメント
第 3 回	外部設計	サブシステム定義・論理データ設計・画面／帳票設計・コード設計
第 4 回	内部設計	機能分割・機能の構造化（プログラム一覧）・物理データ設計
第 5 回	プログラム設計 1	プログラム構造化（モジュール階層構造図）・テストデータ設計
第 6 回	中間発表 1	設計完了時点でどのような研究をするか発表する。
第 7 回	プログラミング 1	プログラムの作成を行う。
第 8 回	プログラミング 2	プログラムの作成を行う。
第 9 回	テスト	単体テスト・結合テスト・システムテスト・運用テスト
第 10 回	中間発表 2	作成した成果物について発表する。
第 11 回	一斉レビュー・テスト	作成した成果物についてレビューとテストを行う。
第 12 回	検収ドキュメント作成	他のグループに作成した成果物を評価してもらうためのドキュメントを作成する。

第13回	検収	他のグループに作成した成果物を評価してもらおう。
第14回	完成発表	作成・研究したものについて発表を行う。
第15回	レポート提出	作成・研究したものについてレポートを作成し提出する。

教 科 目 名	職場見学	担当教師名	石塚 哲也
	Visit to Workplace		
学科・学年・期	情報処理科・2学年・後期	必選・単位数	選択・1単位

[授業の目標・方針]

実際の職場の業務を見学することで、これまで学習してきた内容との違いを確認する。また、通常の授業では体験できない内容を見学することで、学習の目的意識の向上を目指す。

[履修に必要なこと]

社会人としてのマナーを身につけている事。

[成績評価方法]

レポート等で評価する。

[教科書]

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	スケジュールの確認等
第 2 回	概要説明	実習先の概要について調査します
第 3 回	心構え	実習先での行動の注意点について学習します
第 4 回	職場見学	実際の職場を見学します
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回	報告会準備	報告の準備を行います
第 15 回	報告会	報告会を行います

教 科 目 名	インターンシップ2	担当教師名	石塚 哲也
	Internship 2		
学科・学年・期	情報処理科・2学年・後期	必選・単位数	選択・2単位

[授業の目標・方針]

実際の職場での業務を行うことで、実際の職場の実体験として学習する。職場での業務と日頃学んで来た知識の違いを体験し、学んできた内容をどのように生かして行くのかを応用する力を鍛えることを目的とする。

[履修に必要なこと]

社会人としてのマナーを身につけている事。

[成績評価方法]

受け入れ先の評価、レポート等で評価する。

[教科書]

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	スケジュールの確認等
第 2 回	概要説明	実習先の概要について調査します
第 3 回	心構え	実習先での行動の注意点について学習します
第 4 回	インターンシップ	職場で実習をします
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回	報告会準備	報告の準備を行います
第 15 回	報告会	報告会を行います

教 科 目 名	イベントプランニング	担当教師名	小川 昌宏
	Event Planning		
学科・学年・期	情報処理科・2学年・後期	必選・単位数	選択・1.5単位

[授業の目標・方針]

学院祭や研修旅行といった学校や学科で行われる実際のイベントで企画・立案と、実行・運営を行います。また、地域で開催されている実際のイベントにプランニングから携わり、PDC Aサイクルを体験し問題解決能力を育みます。グループ学習を通してコミュニケーション能力を高め、情報を処理するノウハウや知識を習得することを目標とします。

[履修に必要なこと]

グループ毎の話し合いや情報の収集・整理、発表が中心となります。積極的に参加することが必要とされます。

[成績評価方法]

レポート、発表等により評価する。

[教科書]

プリント配布。

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	今後のスケジュール、方針、評価等
第 2 回	学院祭を企画する	企画書作成
第 3 回	学院祭実施準備	実施準備
第 4 回	学院祭実施	イベント実施
第 5 回	発表会準備	視覚的資料作成
第 6 回	学院祭発表会	プレゼンテーション
第 7 回	研修旅行を企画する	企画書作成
第 8 回	研修旅行実施準備	実施準備
第 9 回	研修旅行実施	イベント実施
第 10 回	発表会準備	視覚的資料作成
第 11 回	研修旅行発表会	プレゼンテーション
第 12 回	地域の会議参画	地域の企画会議に参画
第 13 回	地域イベント実施準備	地域イベント実施準備に参画
第 14 回	地域イベント実施	地域イベント実施運営に参画
第 15 回	反省会	反省会に参画

情報処理科

ITコース

専門科目

教 科 目 名	ビジネス知識	担当教師名	芝 亜砂美
	Business Knowledge		
学科・学年・期	情報処理科・1学年・後期	必選・単位数	選択・3単位

[授業の目標・方針]

クライアント・上司・先輩方などの関係者と仕事を共にするビジネス・事務スタッフとして重要な「接遇マナー」、その方々とスムーズな人間関係を構築するために必要な「基本的マナー」等々を講義・実習で習得し、最終的には文部科学省後援の秘書技能検定試験2級・3級に合格することを目的とする。前期は3級の合格を目指す。

[履修に必要なこと]

検定実問題の傾向に慣れるためにも、講義以外でも実問題に触れておくこと。

1学年前期中に出来るだけ検定3級にチャレンジをしてほしい。

[成績評価方法]

授業態度・提出物・期末テストによる総合評価。

[教科書]

独自プリント

「秘書特講 マナー・接遇」財団法人実務技能検定協会編 早稲田教育出版

[参考書]

「秘書検定クリアテスト3級」財団法人実務技能検定協会編 早稲田教育出版

「秘書検定クリアテスト2級」財団法人実務技能検定協会編 早稲田教育出版

[授業計画]

回	項 目	内 容
第1回	接遇マナー I	美しいお辞儀の仕方について
第2回	言葉遣いマナー I	敬語の三種類その1
第3回	〃 II	〃 その2
第4回	〃 III	〃 その3
第5回	〃 IV	〃 その4
第6回	電話応対マナー I	電話実習その1
第7回	〃 II	〃 その2
第8回	〃 III	〃 その3
第9回	接遇マナー II	席順・エレベーターのマナー等
第10回	接遇マナー III	食事のマナー・贈答のマナー
第11回	交際マナー I	慶事のマナーその1
第12回	〃 II	〃 その2
第13回	〃 III	弔事のマナーその1
第14回	〃 IV	〃 その2
第15回	その他	ビジネス文書・事務用品等

教 科 目 名	ヒューマンモラル	担当教師名	小川 昌宏
	Human Moral		
学科・学年・期	情報処理科・1学年・前期	必選・単位数	選択・1.5単位

[授業の目標・方針]

社会に出た時に重要である、正しい判断力と課題解決力の向上を目指します。

[履修に必要なこと]

真摯に取り組み、積極的に輪に入り話し合おうとする姿勢。

[成績評価方法]

課題の結果、レポートの結果等により評価する。

[教科書]

これだけは知っておきたい！面接対策&ビジネスマナー ウイネット  
プリント配布

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	今後のスケジュール、方針、評価等
第 2 回	言語調整・具体化	抽象的な命題に、具体的な例を考え出す
第 3 回	抽象化・文章調整	文章を分解・統合し、意味を捉え易くする
第 4 回	問題発見・前後把握	欠点や矛盾点、改善すべき点を見出す
第 5 回	指示語・定義	言葉の定義を意識し、正確に使う
第 6 回	関係把握・反論	相手の意見を整理し、反対意見と根拠を示す
第 7 回	四部発信・四部読解	四部構成で文章を作る
第 8 回	ルール解説・対立発見	事象を分析し、背後にある規則性を発見する
第 9 回	ギャップ調整・論点把握	時代的、文化的背景を考慮し、解り易く説明する
第10回	情報活用	データ分析し情報を正確に読み取り活用する
第11回	背景洞察・複眼	背景を推察し提示する・多角的に考える
第12回	要約・スケッチ	複数要素を取捨選択し、強調し端的に伝える
第13回	三百文字程度の文章	二部構成の「型」を用いて作文する
第14回	三百文字以上の文章	四部構成の「型」を用いて作文する
第15回	修身	社会人としての正しい判断力を養う

教 科 目 名	ヒューマンスキル	担当教師名	小川 昌宏
	Human Skill		
学科・学年・期	情報処理科・1学年・後期	必選・単位数	選択・1.5単位

[授業の目標・方針]

社会に出た時に重要である、社会性・人間性の向上を目指します。

[履修に必要なこと]

元気な挨拶と、積極的に輪に入り話そうとする姿勢。

[成績評価方法]

課題の結果、レポートの結果等により評価する。

[教科書]

プリント配布

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	今後のスケジュール、方針、評価等
第 2 回	自己紹介	全員の前で効果的な自己紹介をします
第 3 回	マナー基本 5 原則	挨拶 (挨拶に隠されたスキル)
第 4 回		表情 (豊かな表情とやってはいけない表情)
第 5 回		身だしなみ (身だしなみ 3 原則)
第 6 回		態度 (適正な位置と距離)
第 7 回		言葉遣い (100 個知ってるより 1 個使え)
第 8 回	企業の仕組み	組織や役職などの基本を学びます
第 9 回	グループディスカッション	魅力あるイベントについてのディスカッション
第 10 回	ブレインストーミング	全員参加をテーマに発案します
第 11 回	KJ 法	アイデアを集約していきます
第 12 回	発表準備	発表の素材を作ります
第 13 回	プレゼンテーション	全員の前で発表します
第 14 回	P D C A	P D C A とは
第 15 回	P D C A 演習	学科運営について P D C A する

教 科 目 名	簿記原理	担当教師名	工藤 茂
	Bookkeeping Principle		
学科・学年・期	情報処理科・2学年・前期	必選・単位数	選択・3単位

[授業の目標・方針]

簿記の初学者を対象とした科目である。現在用いられている複式簿記についての基礎的な技術を体系的に理解することがこの授業の目的である。授業は、簿記に必要な基礎概念および個々の会計処理方法について、教科書を利用して説明を行う。

会計のルールに基づいた基本的な会計処理の理解はより進んだ会計処理を学習するにあたって基本となる。また、会計処理の理解は会計のルールについて考える財務会計論や各国の会計処理の比較を行う時に基礎となる。本科目の履修を通して獲得が期待される能力・技能は、簿記に必要な基礎概念および個々の会計処理方法について理解し、簡単な財務諸表が作成できるようになることである。

[履修に必要なこと]

簿記の授業は、1回1回の完結型の授業ではなく、前回学習したことを前提に授業を進めていくこととなります。それゆえ、しっかり復習してください。欠席した場合は各自で自習をして次回の授業に臨んでください。授業には電卓を持参してください。

[成績評価方法]

中間考査（随時）・期末考査の結果を勘案して評価する。

[教科書]

『新検定簿記講義3級』渡部裕亙・片山覚・北村敬子 中央経済社  
 日商簿記3級光速マスターテキスト L E C  
 日商簿記3級光速マスター問題集 L E C

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	今後のスケジュール、方針、評価等
第 2 回	簿記の全体像	簿記の社会的役割と基礎概念
第 3 回	商品売買	勘定と仕訳
第 4 回	個別論点	現金預金、商品売買、売掛金・買掛金
第 5 回		経過勘定、引当金等
第 6 回	帳簿記入	合計試算表
第 7 回		残高試算表
第 8 回	貸借対照表と 損益計算書	決算整理 1
第 9 回		決算整理 2
第 10 回	期末試験	期末試験

教 科 目 名	応用簿記	担当教師名	工藤 茂
	Applied Bookkeeping		
学科・学年・期	情報処理科・2学年・後期	必修・単位数	選択・3単位

[授業の目標・方針]

「簿記原理」と比べると、取り扱われる題材は応用的にはなりますが、簿記を学ぶ目的（ねらい）は、この「応用簿記」でも基本的に変りません。簿記をきちんと学べば、財産管理や損益計算（コスト・ベネフィット）を厳密に考えようとするセンスが磨かれます。それは、簿記（・会計）の専門家になるつもりがない場合でもまともに働こうとするならきつと役立つセンス。その向上が、この授業の重要な目的の1つです。また、簿記（・会計）の専門家を目指す人に、そのための次の一歩（より応用的な簿記の知識・発想）を提供することが、もう1つの重要な目的です。表面だけをみて機械的に（粗雑に）扱われることも多い簿記。その次元からは脱け出して、本領をつかみ応用に奥行きをもたせる意識をたいせつにしたいと思います。この授業はカリキュラム上、「簿記原理」で得られるはずの基礎を前提にしたうえで、2年生以上が履修できるほかの財務会計系・管理会計系の発展科目へと橋渡しを行っていく、という位置づけ・想定のもと進められます。

また、この授業は、前提となる「簿記原理」の内容とあわせて日本商工会議所簿記検定3級の全範囲をカバーします。それによって履修者のみなさんが、同検定3級に挑戦するきっかけ・意欲を得たり、実際に合格できるよう、あと押ししたいと考えています。それが達成目標の2つめです。さらに授業計画の後半では、同検定2級商業簿記の範囲のうち、とくに独学がむずかしい論点を取り上げます。そこから履修者のみなさんが、よりスムーズに同検定2級に挑んでいける方向性を示すことが、3つめの達成目標です。

[履修に必要なこと]

この授業の内容は、「簿記原理」履修済みを前提としています。  
 なお、この授業では複数回の提出課題を予定しています。また、授業には必ず電卓を持参してください。

[成績評価方法]

中間考査（随時）・期末考査の結果を勘案して評価する。

[教科書]

『新検定簿記講義3級』渡部裕亘・片山覚・北村敬子 中央経済社  
 日商簿記3級光速マスターテキスト LEC  
 日商簿記3級光速マスター問題集 LEC

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	今後のスケジュール、方針、評価等
第 2 回	簿記の全体像	簿記の役割と基礎概念の復習
第 3 回	決算【精算表の作成】	決算整理 1
第 4 回		決算整理 2
第 5 回	さまざまな取引の 応用的な処理	現金、預金、債権・債務、商品、有価証券、 固定資産、社債などの応用的な処理
第 6 回		
第 7 回	さまざまな帳簿・	応用的な処理をふまえたうえでの、

第 8 回	表の作成と帳簿組織	主要簿・補助簿の作成
第 9 回	本支店簿記	本支店簿記
第 10 回	期末試験	期末試験

教 科 目 名	経営と会計	担当教師名	工藤 茂
	Management and Accounting		
学科・学年・期	情報処理科・2学年・後期	必選・単位数	選択・1.5単位

[授業の目標・方針]

企業の経営実態を知るための分析方法（財務諸表分析）を習得することが目的となる。財務諸表分析は、複式簿記・原価計算とともに、会計学を学習しようとする際の出発点である。講義では、有価証券報告書を利用し、具体的な計算例や事例を提示しながら、随時演習を行う。財務諸表に基づいて、企業分析（成功要因や課題の抽出）ができるようになる。

[履修に必要なこと]

講義に出席する際には電卓を携帯すること。なお、履修するにあたっては、簿記に関する基礎知識を有していることが望ましい。

[成績評価方法]

中間考査（随時）・期末考査の結果を勘案して評価する。

[教科書]

テキストは使用せず、必要に応じて資料を配付する。なお、予習及び復習用の参考教材として以下の書籍をあげておく。

桜井久勝著 『財務諸表分析【第3版】』 中央経済社。

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	今後のスケジュール、方針、評価等
第 2 回	財務諸表分析	財務諸表分析の基本
第 3 回	貸借対照表・損益計算書	貸借対照表と損益計算書の分析
第 4 回	収益性分析	収益性分析
第 5 回	損益分岐点分析	損益分岐点分析
第 6 回	安全性分析	安全性分析
第 7 回	成長性分析	成長性分析
第 8 回	付加価値分析	付加価値分析
第 9 回	キャッシュ・フロー分析	キャッシュ・フロー分析
第 10 回	期末試験	期末試験

教 科 目 名	ビジネス技能	担当教師名	芝 亜砂美
	Business Skill		
学科・学年・期	情報処理科・2学年・前期	必選・単位数	選択・3単位

[授業の目標・方針]

「ビジネス知識」で習得した知識を、実際の技能として生かせ・役立たせるために「実習・演習」で身に付ける。後期中に文部科学省後援の秘書技能検定試験2級・3級の合格を目指す。

[履修に必要なこと]

検定実問題の傾向に慣れるためにも、講義以外でも実問題に触れておくこと。

「ビジネス知識」で、万が一疑問点・不明確のことがあれば、積極的に聞くこと。

[成績評価方法]

授業態度・実技テスト・提出物・期末テストによる総合評価。

[教科書]

独自プリント + (前期使用本)

「秘書特講 マナー・接遇」財団法人実務技能検定協会編 早稲田教育出版

[参考書]

「秘書検定クリアテスト3級」財団法人実務技能検定協会編 早稲田教育出版

「秘書検定クリアテスト2級」財団法人実務技能検定協会編 早稲田教育出版

(前期使用本)

[授業計画]

[授業の目標・方針]

職業人として最も重要なことに、いかにスムーズにクライアント・上司・先輩等と「良好な人間関係を築けるか」である。それらに必要な「コミュニケーション能力」を講義・実習・ディスカッションを通して、しっかりと見に付けて開花させる。

また、1年生で学んだ「ビジネス知識」「ビジネス技能」の集大成として、「秘書技能検定準1級・2級・3級」また「サービス接遇検定準1級・2級・3級」の取得を目指す。

[履修に必要なこと]

「ビジネス知識」「ビジネス技能」で、万が一疑問点・不明確のことがあれば、積極的に聞くこと。

秘書技能検定やサービス接遇検定に積極的に挑戦する姿勢。

[成績評価方法]

授業態度（特に実習・ディスカッションへの積極参加態度）、提出物、期末テストによる総合評価。

[教科書]

自作プリントを使用する。

[参考書]

「秘書検定3級クリアテスト」財団法人実務技能検定協会編 早稲田教育出版

「秘書検定2級クリアテスト」財団法人実務技能検定協会編 早稲田教育出版

「秘書検定1級・準1級クリアテスト」財団法人実務技能検定協会編 早稲田教育出版

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	講義	相手の「話し」を聞くこと・姿勢・相槌に打ち方
第 2 回	講義	患者様との基本的な共感の訓練
第 3 回	実習	患者様に不快感等を与えない技法
第 4 回	ディスカッション	グループで「テーマ」に沿って討論
第 5 回	プレゼンテーション	グループでの発表
第 6 回	検定対策	「秘書検定対策」又は「サービス接遇検定対策」1
第 7 回	検定対策	「秘書検定対策」又は「サービス接遇検定対策」2
第 8 回	検定対策	「秘書検定対策」又は「サービス接遇検定対策」3
第 9 回	検定対策	「秘書検定対策」又は「サービス接遇検定対策」4
第 10 回	検定対策	「秘書検定対策」又は「サービス接遇検定対策」5

教 科 目 名	ビジネス文書演習	担当教師名	佐藤 誠
	Business Document Skills		
学科・学年・期	情報処理科・2学年・前期	必選・単位数	選択・1.5単位

[授業の目標・方針]

各ワープロソフトの機能修得及び基本的な商業事務通信文、罫線及び基本的な表の作成方法の修得を目標とする。

授業の方針は、講義よりも実践的に技術指導に徹し、その中で必要な講義を行う。

実技中心により、各々の弱点や欠点、理解できていない箇所を本人が把握できるように、必ず作成した作品を提出させ、教師が校正し理解させる。

[履修に必要なこと]

テキストには、丁寧な解説は無いので、各自が必要事項をテキストに記入する。

[成績評価方法]

中間試験、期末試験、提出物を考慮し、評価する。

[教科書]

工学院オリジナルテキスト

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	文書情報の重要性	ワープロに必要な操作をはじめ、基本的な通信文を作るために必要な文書の書式、文書構成、余白の取り方、用紙サイズの決め方を実技により理解させる。 ワープロに係わる技術的常識を講義及び実技の中で説明、理解させる。
第 2 回	文書の種類	
第 3 回	文書の構成	
第 4 回	用紙サイズ及び余白	
第 5 回	基本的なキータッチ練習	
第 6 回	基本的通信文の作成	
第 7 回	商業通信文の作成	各自に作成させ、教師が校正指導する。
第 8 回	中間試験	筆記試験
第 9 回	商業通信文の作成	各自に作成させ、教師が校正指導する。
第 10 回	商業通信文の作成	各自に作成させ、教師が校正指導する。
第 11 回	商業通信文の作成	各自に作成させ、教師が校正指導する。
第 12 回	商業通信文の作成	各自に作成させ、教師が校正指導する。
第 13 回	商業通信文の作成	各自に作成させ、教師が校正指導する。
第 14 回	罫線及び表作成	罫線の使い方、表の作成方法
第 15 回	表入り通信文の作成	通信文中に表が含まれているものの作成方法

教 科 目 名	ビジネス文書技法	担当教師名	佐藤 誠
	Business Document Technique		
学科・学年・期	情報処理科・2学年・後期	必選・単位数	選択・1.5単位

[授業の目標・方針]

ビジネス文書演習で学んだ文書実務を実践的に更に深く研究学習する。

授業の方針は、実践的に技術指導に徹し、その中で必要な時説明を加える。理解度により本人が把握できるよう個人的に指導し、必ず作成した作品を提出させ、教師が校正し理解させる。

[履修に必要なこと]

普段より文字との関わりを持ち、文章に慣れるような生活習慣を身に付ける。

[成績評価方法]

中間試験、期末試験、とくに提出物を考慮し、評価する。

[教科書]

ワープロ文書100題 ワープロ教育研究会著 一橋出版株式会社

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	<b>【社内通信文】</b> 通達・指示書・稟議書・ 報告書・通知書・合議書・ 議事録等の作成 <b>【社外通信文】</b> 〔取引文書〕案内状・招 待状・注文書・申込書・ 依頼書・回答状・請求書・ 督促状・詫び状等 〔社交文書〕挨拶状・礼 状・見舞状・弔慰状等 〔法的文書〕契約書・内 容証明・定款等	筆記文字、活字文字等の原稿を校正記号に従って正しい書式に直して作成する。 文字数、行数の関係を考慮して用紙サイズを自ら決め、バランスの良い文書を作成する。 指定の文字数、行数をもとにバランスの良い文書を作成する。 データをもとにデータに合ったグラフの作成。 文中の言葉遣いなどに誤りがある場合の対処の仕方等。
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 9 回		
第 10回		
第 11回		
第 12回		
第 13回		
第 14回		
第 15回		
第 8 回		

教 科 目 名	Office 演習 1	担当教師名	大野 賢二
	Microsoft Office Practice 1		
学科・学年・期	情報処理科・2 学年・前期	必選・単位数	選択・1.5 単位

[授業の目標・方針]

1 年前期のパソコン演習をもとに、より進んだ使い方を習得する。問題に合致した機能を利用し完成できるようにするとともに、データ処理の大まかな流れを把握できるようにする。

[履修に必要なこと]

表計算ソフトとデータベースソフトについて基本的な操作ができること

[成績評価方法]

中間試験・期末試験等の結果とレポートを考慮して評価する。

[教科書]

プリントを適宜配布

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	データベースの基本	データベースの基本的な考え方
第 2 回	データベースの基本操作	データベースソフトの基本的な操作
第 3 回	テーブルの作成方法	リレーショナルを考慮して作成
第 4 回	テーブルの操作方法	データベースとしての基本的な操作
第 5 回	クエリーの作成方法 1	選択・演算クエリーの作成
第 6 回	クエリーの作成方法 2	パラメータ・アクションクエリーの作成
第 7 回	フォームの作成方法	入力フォーム作成し整える
第 8 回	総合演習 1	レポートの作成と提出
第 9 回	データベースの基本設計	基本的な考え方と方針の作成
第 10 回	テーブルの作成	リレーショナルを考慮して作成
第 11 回	フォームの作成	サブフォームの利用
第 12 回	クエリーの作成	選択・演算クエリーの作成
第 13 回	レポートの作成	パラメータ・アクションクエリーの作成
第 14 回	マクロの利用	作業のマクロ化
第 15 回	総合課題 2	レポートの作成と提出

教 科 目 名	Office 演習 2	担当教師名	大野 賢二
	Microsoft Office Practice 2		
学科・学年・期	情報処理科・2 学年・後期	必選・単位数	選択・1.5 単位

[授業の目標・方針]

前期の Office 演習 1 をもとに、より進んだ使い方を習得する。問題に合致した機能を利用し完成できるようにするとともに、データ処理の大きな流れを把握できるようにする。

[履修に必要なこと]

表計算ソフトとデータベースソフトについて基本的な操作ができること

[成績評価方法]

中間試験・期末試験等の結果とレポートを考慮して評価する。

[教科書]

プリントを適宜配布

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	データベースの基本	データベースの基本的な考え方
第 2 回	データベースの基本操作	データベースソフトの基本的な操作
第 3 回	テーブルの作成方法	リレーショナルを考慮して作成
第 4 回	テーブルの操作方法	データベースとしての基本的な操作
第 5 回	クエリーの作成方法 1	選択・演算クエリーの作成
第 6 回	クエリーの作成方法 2	パラメータ・アクションクエリーの作成
第 7 回	フォームの作成方法	入力フォーム作成し整える
第 8 回	総合演習 1	レポートの作成と提出
第 9 回	データベースの基本設計	基本的な考え方と方針の作成
第 10 回	テーブルの作成	リレーショナルを考慮して作成
第 11 回	フォームの作成	サブフォームの利用
第 12 回	クエリーの作成	選択・演算クエリーの作成
第 13 回	レポートの作成	パラメータ・アクションクエリーの作成
第 14 回	マクロの利用	作業のマクロ化
第 15 回	総合課題 2	レポートの作成と提出

教 科 目 名	プログラミング演習	担当教師名	大野 賢二
	Programming Exercises		
学科・学年・期	情報処理科・2学年・後期	必選・単位数	選択・1.5単位

[授業の目標・方針]

ExcelVBA の開発環境を使用し、簡単なゲームや実務的なプログラミングを演習することで、プログラムの目的や有用性、組み上げる楽しさを学ぶ。

[履修に必要なこと]

論理的思考回路。

[成績評価方法]

課題提出や中間試験、期末試験の結果を考慮して評価する。

[教科書]

配布プリント

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	スケジュールと基本設定
第 2 回	プログラムの基礎	変数、式、演算子
第 3 回		分岐命令
第 4 回		繰り返し処理
第 5 回		
第 6 回	ボートレース作成	ボートの動かし方、基本設計
第 7 回		ボートを動かす、乱数発生
第 8 回		ゴール判定、賞金計算
第 9 回	ダンジョン作成	ダンジョンの考え方、キャラを自由に動かす
第 10 回		イベントの判定、多分岐処理
第 11 回		サブプログラムと引数
第 12 回		裏画面と表画面
第 13 回	カレンダー作成	仕組の説明と手順確認
第 14 回		体裁を整えるプログラム
第 15 回		内容を入れ込むプログラム

教 科 目 名	プレゼンテーション	担当教師名	小川 昌宏
	Presentation		
学科・学年・期	情報処理科・2学年・後期	必選・単位数	選択・1.5単位

[授業の目標・方針]

卒業旅行を題材として、「企画」・「立案」・「コンペティション」という手法を用いて、プレゼンテーション資料の作成から発表までの一連の流れを学習します。

[履修に必要なこと]

[成績評価方法]

[教科書]

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	今後のスケジュール、方針、評価等
第 2 回	チーム編成	チームを編成する
第 3 回	テーマ決定	行き先やテーマ・発表内容を決定する
第 4 回	素材収集	プレゼンテーションに必要な参考資料（写真、アンケート結果、ニュース記事等）を収集する
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回	構成作成	要点を絞り、どの順序で話を進めるのか、ストーリーを考える
第 8 回		
第 9 回	資料作成	パワーポイントでの資料作成、または展示物、配布物の作成
第 10 回		
第 11 回	リハーサル	時間を計って発表の練習 会場や機器の確認をする
第 12 回		
第 13 回	コンペティション	プレゼンテーションを実施し投票する
第 14 回	振り返り	内容は伝わったか、聞き手から反応を得る
第 15 回	レポート作成・提出	資料をまとめレポートとして提出する

情報処理科

大学編入コース

専門科目

教 科 目 名	物理 A	担当教師名	大立目 寛明
	Physics A		
学科・学年・期	情報処理科・1 学年・前期	必選・単位数	選択・2 単位

[授業の目標・方針]

力学を中心とした基礎物理について学ぶ。基本的な運動を表す数式を理解し、諸条件を基に問題を解くことができることを目標とする。

[履修に必要なこと]

高校1年程度の物理学の知識があること。

[成績評価方法]

レポート課題を中心として総合的に評価する。

[教科書]

高専の物理 和達三樹 森北出版

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	直線運動	速度と加速度、等速直線運動
第 2 回	直線運動	等加速度直線運動
第 3 回	運動の法則	運動の第 1 法則
第 4 回	運動の法則	運動の第 2 法則
第 5 回	運動の法則	運動の第 3 法則
第 6 回	いろいろな直線運動	運動方程式の作り方
第 7 回	いろいろな直線運動	自由落下運動、投げ上げ運動
第 8 回	運動量	力積と運動量
第 9 回	運動量	運動量保存の法則
第 10 回	力学的エネルギー	仕事の大きさ、運動エネルギー、位置エネルギー
第 11 回	力学的エネルギー	力学的エネルギー保存の法則
第 12 回	平面・空間での運動	ベクトルとスカラー
第 13 回	平面・空間での運動	運動方程式
第 14 回	剛体や流体に働く力	剛体に働く力
第 15 回	剛体や流体に働く力	圧力

教 科 目 名	物理 B	担当教師名	大立目 寛明
	Physics B		
学科・学年・期	情報処理科・1 学年・後期	必選・単位数	選択・2 単位

[授業の目標・方針]

熱力中心として波・電磁気等の基礎物理について幅広く学ぶ。熱力学のエネルギー保存則、波の性質、電磁気学の基礎の習得を目指す。

[履修に必要なこと]

物理 A の内容を理解していること。

[成績評価方法]

レポート課題を中心として総合的に評価する。

[教科書]

高専の物理 和達三樹 森北出版

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	温度と熱	なぜ物質に温度があるのか
第 2 回	熱量	熱量とは何か
第 3 回	気体の分子運動	温度と気体分子の関係
第 4 回	エネルギー保存の法則	熱力学の第 1 法則・第 2 法則
第 5 回	直線上を伝わる波	波長、振動数、速さ
第 6 回	平面や空間を伝わる波	ホイヘンスの原理
第 7 回	音波	音速、ドップラー効果
第 8 回	光波	光の性質
第 9 回	光学機器	平面鏡とレンズ
第 10 回	静電界	電界とは
第 11 回	直流	電圧、電流、直流回路
第 12 回	電流と磁界	電流による磁界
第 13 回	電磁誘導と交流	電磁誘導
第 14 回	電子と光	光の粒子性と波動性
第 15 回	原子と原子核	原子の構造、放射線

教 科 目 名	TOEIC 英語演習 I	担当教師名	持富 勇一
	TOEIC English Exercise 1		
学科・学年・期	情報処理科・1 学年・前期	必選・単位数	選択・1 単位

[授業の目標・方針]

TOEIC 試験に向けた基礎的な英語能力の習得を目的に学習する。

[履修に必要なこと]

高校 3 年程度の英語力があること。

[成績評価方法]

中間試験、期末試験の結果を総合的に評価する。

[教科書]

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	Part 1 対策	写真描写問題について練習問題を通して対策を行う。
第 2 回		
第 3 回	Part 2 対策	応答問題について練習問題を通して対策を行う。
第 4 回		
第 5 回	Part 3 対策	会話問題について練習問題を通して対策を行う。
第 6 回		
第 7 回	Part 4 対策	説明文問題について練習問題を通して対策を行う。
第 8 回		
第 9 回	Part 5 対策	短文穴埋め問題について練習問題を通して対策を行う。
第 10 回		
第 11 回	Part 6 対策	長文穴埋め問題について練習問題を通して対策を行う。
第 12 回		
第 13 回	Part 7 対策	読解問題について練習問題を通して対策を行う。
第 14 回		
第 15 回	期末試験	

教 科 目 名	TOEIC 英語演習Ⅱ	担当教師名	持富 勇一
	TOEIC English Exercise 2		
学科・学年・期	情報処理科・1 学年・後期	必選・単位数	選択・1 単位

[授業の目標・方針]

TOEIC 試験に向けた基礎的な英語能力の習得を目的に学習する。

[履修に必要なこと]

1 年前期の「TOEIC 英語演習Ⅰ」の内容を理解していること。

[成績評価方法]

中間試験、期末試験の結果を総合的に評価する。

[教科書]

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	Part 1 対策	写真描写問題について練習問題を通して対策を行う。
第 2 回		
第 3 回	Part 2 対策	応答問題について練習問題を通して対策を行う。
第 4 回		
第 5 回	Part 3 対策	会話問題について練習問題を通して対策を行う。
第 6 回		
第 7 回	Part 4 対策	説明文問題について練習問題を通して対策を行う。
第 8 回		
第 9 回	Part 5 対策	短文穴埋め問題について練習問題を通して対策を行う。
第 10 回		
第 11 回	Part 6 対策	長文穴埋め問題について練習問題を通して対策を行う。
第 12 回		
第 13 回	Part 7 対策	読解問題について練習問題を通して対策を行う。
第 14 回		
第 15 回	期末試験	

教 科 目 名	大学専門科目ゼミナール A	担当教師名	引地 政征
	Seminar A for the specialized subjects of University		
学科・学年・期	情報処理科・1 学年・前期	必選・単位数	選択・3 単位

[授業の目標・方針]

大学編入試験における必要な対策を各自の目標を明確にしながら少人数のゼミナール形式で行う。大学専門科目に対応するために各分野の基礎的な部分の習得を目標にする。

[履修に必要なこと]

大学編入するに十分な基礎知識を有していること。特に高校卒業程度の数学・英語の知識は重要である。

[成績評価方法]

レポート提出等によって評価する。

[教科書]

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、評価方法や学習の目的など
第 2 回	目標設定	将来受験する予定の大学の受験科目等を調査し、何を勉強するべきかを設定する。
第 3 回	全体計画設計	それぞれの目標に到達するための具体的な方策について期間を区切って定め、目標達成が客観的にわかる指標を設定する
第 4 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 5 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 6 回	評価と改善計画	各自の結果を評価して、改善計画を立てる。
第 7 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 8 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 9 回	評価と改善計画	各自の結果を評価して、改善計画を立てる。
第 10 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 11 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 12 回	評価と改善計画	各自の結果を評価して、改善計画を立てる。
第 13 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 14 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 15 回	評価と改善計画	各自の結果を評価して、改善計画を立てる。

教 科 目 名	大学専門科目ゼミナール B	担当教師名	引地 政征
	Seminar B for the specialized subjects of University		
学科・学年・期	情報処理科・1 学年・後期	必選・単位数	選択・3 単位

[授業の目標・方針]

大学編入試験における必要な対策を各自の目標を明確にしながら少人数のゼミナール形式で行う。大学専門科目に対応するために各分野の基礎的な部分の習得を目標にする。大学専門科目ゼミナール A で基礎的な部分は修得したのものとして、より発展的なゼミナールを実施する。

[履修に必要なこと]

大学編入するに十分な基礎知識を有していること。大学専門科目ゼミナール A で基礎的な知識は修得していることが望ましい。

[成績評価方法]

レポート提出等によって評価する。

[教科書]

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	全体計画設計	それぞれの目標に到達するための具体的な方策について期間を区切って定め、目標達成が客観的にわかる指標を設定する
第 2 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 3 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 4 回	評価と改善計画	各自の結果を評価して、改善計画を立てる。
第 5 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 6 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 7 回	評価と改善計画	各自の結果を評価して、改善計画を立てる。
第 8 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 9 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 10 回	評価と改善計画	各自の結果を評価して、改善計画を立てる。
第 11 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 12 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 13 回	評価と改善計画	各自の結果を評価して、改善計画を立てる。
第 14 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 15 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する

教 科 目 名	大学専門科目ゼミナールC	担当教師名	引地 政征
	Seminar C for the specialized subjects of University		
学科・学年・期	情報処理科・1学年・後期	必選・単位数	選択・3単位

[授業の目標・方針]

大学編入試験における必要な対策を各自の目標を明確にしながら少人数のゼミナール形式で行う。大学編入試験が早期に実施される学校はこの期間内に行われる。編入試験直前にあたるため、編入試験に直結した内容のゼミナールを行う。

[履修に必要なこと]

大学編入するに十分な基礎知識を有していること。大学専門科目ゼミナールA・Bで基礎的な知識は修得していることが望ましい。

[成績評価方法]

レポート提出等によって評価する。

[教科書]

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	全体計画設計	それぞれの目標に到達するための具体的な方策について期間を区切って定め、目標達成が客観的にわかる指標を設定する
第 2 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 3 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 4 回	評価と改善計画	各自の結果を評価して、改善計画を立てる。
第 5 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 6 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 7 回	評価と改善計画	各自の結果を評価して、改善計画を立てる。
第 8 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 9 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 10 回	評価と改善計画	各自の結果を評価して、改善計画を立てる。
第 11 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 12 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 13 回	評価と改善計画	各自の結果を評価して、改善計画を立てる。
第 14 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 15 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する

教 科 目 名	経済学入門Ⅰ	担当教師名	坂本 明
	Economics Introduction 1		
学科・学年・期	情報処理科・1学年・前期	必選・単位数	選択・3単位

[授業の目標・方針]

経済学を初めて学ぶみなさんに、平易にその内容を紹介する講義です。本科目では、消費者、生産者および政府など、個別主体の行動の集計として経済社会を考える「ミクロ経済学」の入門的内容を講義します。本科目と「マクロ経済学」を扱う『経済学入門Ⅱ』を合わせて履修することで、経済学の考え方を最も基礎的なレベルで一通り学習することが出来ます。『経済学入門Ⅰ・Ⅱ』の学習内容は、『ミクロ経済学』・『マクロ経済学』をはじめ、多くの経済学科専門科目を履修する際の基礎知識となります。経済学の基本的な考え方や分析手法の説明をして、経済学に興味を抱いてもらうことを目的とします。

[履修に必要なこと]

[成績評価方法]

期末試験、課題等により評価する。

[教科書]

『スティグリッツ入門経済学 第4版』 東洋経済新報社

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	今後のスケジュール、方針、評価等
第 2 回	現代の経済学	現代の経済学
第 3 回		
第 4 回	経済学的な考え方	経済学的な考え方
第 5 回		
第 6 回	需要、供給、価格	需要、供給、価格
第 7 回		
第 8 回	需要・供給分析の応用	需要・供給分析の応用
第 9 回		
第10回	市場と効率性	市場と効率性
第11回		
第12回	不完全市場入門	不完全市場入門
第13回		
第14回	公共部門	公共部門
第15回	期末試験	期末試験

教 科 目 名	経済学入門Ⅱ	担当教師名	坂本 明
	Economics Introduction 2		
学科・学年・期	情報処理科・1学年・後期	必選・単位数	選択・3単位

[授業の目標・方針]

この授業では、経済成長・失業・インフレーション等の問題のように、1国全体の経済活動に焦点を当てた「マクロ経済学」の入門的内容を講義します。「ミクロ経済学」の内容を取り扱う『経済学入門Ⅰ』と本科目を合わせて履修することにより、経済学の基礎を一通り学習します。『経済学入門Ⅰ およびⅡ』を学習することにより、『ミクロ経済学』や『マクロ経済学』をはじめとする経済学科専門科目を履修する際の基礎知識を身につけることができます。

[履修に必要なこと]

[成績評価方法]

期末試験、課題等により評価する。

[教科書]

『マクロ経済学』 有斐閣

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	今後のスケジュール、方針、評価等
第 2 回	国内総生産	国内総生産
第 3 回	消費と貯蓄の理論	消費と貯蓄の理論
第 4 回	投資の理論	投資の理論
第 5 回	金融の役割	金融の役割
第 6 回	貨幣の需要と供給	貨幣の需要と供給
第 7 回	乗数理論	乗数理論
第 8 回	経済政策の有効性	経済政策の有効性
第 9 回	インフレ	インフレ
第 10 回		
第 11 回	失業	失業
第 12 回		
第 13 回	経済成長	経済成長
第 14 回		
第 15 回	期末試験	期末試験

教 科 目 名	ミクロ経済学	担当教師名	坂本 明
	Microeconomics		
学科・学年・期	情報処理科・1学年・前期	必選・単位数	選択・4単位

[授業の目標・方針]

この科目では、誘因と市場機構による資源配分に焦点を合わせてミクロ経済学の概要を説明します。誘因とは、家計（消費者）や企業が行動選択をする動機と理解して下さい。どの社会においても経済的な資源は稀少です。その資源が、経済活動の中でいかに配分されるか。ミクロ経済学は、この資源配分の問題にたいする解答を、主に市場機構の働きによって与えます。この科目では、市場機構の働きを中心に、不完全競争など市場の機能を阻害する状況でのゲーム理論についても説明します。

[履修に必要なこと]

「経済学入門Ⅰ」を履修していること。

[成績評価方法]

期末試験、課題等により評価する。

[教科書]

『ミクロ経済学の力』 日本評論社

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	今後のスケジュール、方針、評価等
第 2 回	経済問題の事例	経済問題の事例
第 3 回	消費者行動の理論	消費者行動の理論
第 4 回	企業行動の理論	企業行動の理論
第 5 回	市場均衡	市場均衡
第 6 回		
第 7 回	市場の失敗	市場の失敗
第 8 回		
第 9 回	独占	独占
第 10 回		
第 11 回	同時手番のゲームとナッシュ均衡	同時手番のゲームとナッシュ均衡
第 12 回		
第 13 回	時間を通じたゲームと戦略の信頼性	時間を通じたゲームと戦略の信頼性
第 14 回		
第 15 回	期末試験	期末試験

教 科 目 名	マクロ経済学	担当教師名	坂本 明
	Macroeconomics		
学科・学年・期	情報処理科・1学年・後期	必選・単位数	選択・4単位

[授業の目標・方針]

この科目では、標準的なマクロ経済学について講義します。「マクロ経済学」は「ミクロ経済学」とならんで、経済学の基本的な科目であり、金融論・国際経済学・財政学などの応用分野の理論的基礎を提供します。この講義では、マクロ経済学の基本的な分析ツールを身につけ、現実のマクロ経済問題を論理的に考える能力を習得することを目的とします。

[履修に必要なこと]

「経済学入門Ⅰ」・「経済学入門Ⅱ」・「ミクロ経済学」を履修済みであること、または同時に履修することが望ましい。

[成績評価方法]

期末試験、課題等により評価する。

[教科書]

『マクロ経済学』 有斐閣

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	今後のスケジュール、方針、評価等
第 2 回	マクロ経済学の基本	マクロ経済学の基本的な考え方
第 3 回	経済活動の水準を測る	経済活動の水準を測る
第 4 回	GDP決定メカニズム	GDP決定メカニズム
第 5 回	家計の消費	家計の消費
第 6 回	投資	投資
第 7 回	貨幣需要と貨幣供給	貨幣需要と貨幣供給
第 8 回	開放経済の長期均衡	開放経済における長期均衡
第 9 回	経済成長の理論	経済成長の理論
第 1 0 回	不完全雇用経済	不完全雇用経済：短期の経済理論
第 1 1 回	開放経済の短期均衡	開放経済における短期均衡
第 1 2 回	短期の供給曲線	短期の供給曲線
第 1 3 回	マクロ安定化政策	マクロ安定化政策
第 1 4 回	公債と財政赤字	公債と財政赤字
第 1 5 回	期末試験	期末試験

教 科 目 名	大学専門科目ゼミナールD	担当教師名	引地 政征
	Seminar D for the specialized subjects of University		
学科・学年・期	情報処理科・2学年・前期	必選・単位数	選択・3単位

[授業の目標・方針]

大学編入試験における必要な対策を各自の目標を明確にしながら少人数のゼミナール形式で行う。既に大学編入試験に合格し進路が確定している人とこれから編入試験が行われる人が存在しているはずである。進路が確定している人は大学入学後に役に立つ内容を実施する。また、これから大学編入試験を受験する人は試験対策を中心にゼミナールを行う。

[履修に必要なこと]

大学編入するに十分な基礎知識を有していること。大学専門科目ゼミナール A・B・C で基礎的な知識は修得していることが望ましい。

[成績評価方法]

レポート提出等によって評価する。

[教科書]

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	全体計画設計	それぞれの目標に到達するための具体的な方策について期間を区切って定め、目標達成が客観的にわかる指標を設定する
第 2 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 3 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 4 回	評価と改善計画	各自の結果を評価して、改善計画を立てる。
第 5 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 6 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 7 回	評価と改善計画	各自の結果を評価して、改善計画を立てる。
第 8 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 9 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 10 回	評価と改善計画	各自の結果を評価して、改善計画を立てる。
第 11 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 12 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 13 回	評価と改善計画	各自の結果を評価して、改善計画を立てる。
第 14 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 15 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する

教 科 目 名	オペレーションズ・リサーチ	担当教師名	引地 政征
	Operations Research		
学科・学年・期	情報処理科・2学年・前期	必選・単位数	選択・2単位

[授業の目標・方針]

オペレーションズ・リサーチ (OR) とは意思決定するための科学的な手法の体系である。本科目では日程計画、待ち行列、在庫管理、線形計画法について数学的解法を学びます。

[履修に必要なこと]

高校程度の数学の知識は必須である。

[成績評価方法]

期末試験、レポート提出等によって評価する。

[教科書]

OR へのステップ, 長畑秀和, 共立出版

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	日程計画 1	アローダイアグラム
第 2 回	日程計画 2	PERT
第 3 回	在庫管理 1	在庫管理の最適化
第 4 回	在庫管理 2	経済発注量公式
第 5 回	在庫管理 3	発注点法
第 6 回	在庫管理 4	定期発注法
第 7 回	待ち行列 1	到着分布とサービス分布
第 8 回	待ち行列 2	単一窓口
第 9 回	待ち行列 3	複数窓口
第 10 回	線形計画法 1	決定変数、目的関数、制約条件
第 11 回	線形計画法 2	グラフによる解法
第 12 回	線形計画法 3	計算による解法
第 13 回	線形計画法 4	輸送問題
第 14 回	総まとめ	
第 15 回	期末試験	

教 科 目 名	計画科学	担当教師名	引地 政征
	Planning science		
学科・学年・期	情報処理科・2学年・後期	必選・単位数	選択・4単位

[授業の目標・方針]

オペレーションズ・リサーチ (OR) で学んだ意思決定手法について計算機を用いたシミュレーションを通じて理解を深めます。さらに、本科目ではゲーム理論による最適解と階層化意思決定法について数学的解法を学びます。

[履修に必要なこと]

オペレーションズ・リサーチの内容を修得していること。

[成績評価方法]

期末試験、レポート提出等によって評価する。

[教科書]

ゲーム理論・入門 岡田章 有斐社アルマ

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	シミュレーションとは	乱数の性質と発生
第 2 回	在庫管理	在庫管理のシミュレーション
第 3 回	待ち行列	待ち行列のシミュレーション
第 4 回	線形計画法	線形計画法のシミュレーション
第 5 回	ゲーム理論 1	純粋戦略
第 6 回	ゲーム理論 2	混合戦略
第 7 回	ゲーム理論 3	ベイズ解
第 8 回	ゲーム理論 4	ナッシュ均衡点
第 9 回	ゲーム理論 5	利害の対立と協力
第 10 回	ゲーム理論 6	繰り返しゲーム
第 11 回	ゲーム理論 7	不確実な相手とのゲーム
第 12 回	階層化意思決定法 1	階層化意思決定とは
第 13 回	階層化意思決定法 2	ウェイト計算法
第 14 回	総まとめ	
第 15 回	期末試験	

教 科 目 名	統計学	担当教師名	本田 薫
	Statistics		
学科・学年・期	情報処理科・2学年・前期	必選・単位数	選択・3単位

[授業の目標・方針]

本学科の卒業研究では、統計学の方法を使用することがある。この授業では、統計学、特に、推測統計学の基本的な内容を理解することを目的とする。本科目の履修を通して獲得が期待される能力・技能は、統計学に関する基礎的な理論を習得することを目的とする。

[履修に必要なこと]

授業では電卓、定規を使用することがある。指示があった際には必ず用意して講義を受けること。

[成績評価方法]

期末試験、課題等により評価する。

[教科書]

『マンガでわかる統計学』 OHM

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	今後のスケジュール、方針、評価等
第 2 回	確率	標本空間、事象、確率
第 3 回		順列、組み合わせとその応用
第 4 回		独立な事象、条件付確率、ベイズの定理
第 5 回	確率変数と確率変数の分布	離散確率分布と確率関数
第 6 回		連続確率分布と確率密度関数
第 7 回		期待値の演算
第 8 回		2 項分布と正規分布
第 9 回		2 次元同時確率分布、チェビシェフの不等式と大数の法則
第 10 回		標本分布
第 11 回	標本分布	無作為抽出と無作為標本、標本平均と標本分散の分布
第 12 回		中心極限定理とその応用
第 13 回	推定	平均の推定
第 14 回		分散の推定
第 15 回	期末試験	仮説検定

教 科 目 名	社会と金融	担当教師名	坂本 明
	Society and Finance		
学科・学年・期	情報処理科・2学年・後期	必選・単位数	選択・3単位

[授業の目標・方針]

金融は私たちの日常生活にとっても身近なものですが、応用経済学の1つでもあるため、取っ付きにくい印象もあるでしょう。この授業は金融論の初学者を対象とした科目です。金融の果たす役割や日本の金融政策について学びます。金融の基礎知識を習得し、様々な金融問題について経済学的に分析し説明できるようになることが授業の目的です。金融が私たちの日常生活にとって不可欠なものであることを理解し、また、金融機関や金融市場、金融政策についての基礎知識を習得する。そして、金融問題について、習得した知識を用いながら、自分なりに説明できるようになることを目的とする。

[履修に必要なこと]

ミクロ経済学およびマクロ経済学（特にIS-LM分析）を受講済みあるいは受講中のほうが望ましいです。日商簿記3級くらいの知識もあったほうがよいです。そうでない方は自分で勉強したり調べたりするように心掛けて下さい。

[成績評価方法]

期末試験、課題等により評価する。

[教科書]

『金融読本（第29版）』 東洋経済新報社

[授業計画]

回	項 目	内 容
第1回	ガイダンス	今後のスケジュール、方針、評価等
第2回	貨幣	貨幣の役割、貨幣の定義、貨幣と物価
第3回	金融業務	預金業務、貸出業務、為替業務、証券投資、証券業務、業務上のリスク
第4回	銀行	役割と種類、日本銀行、銀行、信用創造論
第5回	銀行以外の金融機関	証券会社、投資信託会社、保険会社、ノンバンク
第6回	金融市場と金利	金融市場（短期と長期）、金利の決定要因と理論、債券利回り
第7回	企業の金融	企業の資金需要、企業の資金調達、株式の投資指標
第8回	家計の金融	お金を借りる、お金を運用する、万が一に備える、老後に備える
第9回	決済システム	資金決済、証券決済
第10回	デリバティブ	デリバティブ、先物と先渡、スワップ、オプション
第11回	資金循環	貯蓄と投資、資金過不足、金融構造の変化
第12回	金融政策の効果と手段	物価の安定、金融政策の効果、政策手段

第13回	日本の金融政策	公定歩合政策, ゼロ金利政策, 量的緩和政策
第14回	プルーデンス政策	信用秩序の維持, BIS 規制, 預金保険制度, 最後の貸し手機能
第15回	金融制度の改革	金融自由化, 金利の自由化, 規制緩和, 金融ビッグバン

教 科 目 名	体育 1	担当教師名	三谷 直人
	Physical education 1		
学科・学年・期	情報処理科・2学年・後期	必選・単位数	選択・1単位

[授業の目標・方針]

さまざまなスポーツを通じて、基礎体力の養成と、筋力の向上を図り、基本的な種目のルールや技術の習得を目的とする。

[履修に必要なこと]

運動しやすい服装

[成績評価方法]

定期試験、授業姿勢を総合的に評価

[教科書]

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	はじめに	授業の進め方
第 2 回	バスケットボール	ルールの理解
第 3 回	〃	基本技術の習得
第 4 回	〃	戦術の理解
第 5 回	〃	試合を通じてチームワークを高める
第 6 回	キンボール	ニュースポーツを知る
第 7 回	〃	ルールを理解
第 8 回	バレーボール	ルールの理解
第 9 回	〃	基本技術の習得
第 10 回	〃	戦術の理解
第 11 回	〃	試合を通じてチームワークを高める
第 12 回	バドミントン	ルールの理解
第 13 回	〃	基本技術の習得
第 14 回	〃	戦術の理解
第 15 回	〃	試合を通じてチームワークを高める

教 科 目 名	体育2	担当教師名	三谷 直人
	Physical education 1		
学科・学年・期	情報処理科・2学年・後期	必選・単位数	選択・1単位

[授業の目標・方針]

さまざまなスポーツを通じて、基礎体力の養成と、筋力の向上を図り、基本的な種目のルールや技術の習得を目的とする。

[履修に必要なこと]

運動しやすい服装

[成績評価方法]

定期試験、授業姿勢を総合的に評価

[教科書]

[参考書]

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	はじめに	授業の進め方
第 2 回	サッカー	ルールの理解
第 3 回	〃	基本技術の習得
第 4 回	〃	戦術の理解
第 5 回	〃	試合を通じてチームワークを高める
第 6 回	インディアカ	ニュースポーツを知る
第 7 回	〃	ルールを理解
第 8 回	バスケットボール	ルールの理解
第 9 回	〃	基本技術の習得
第 10 回	〃	戦術の理解
第 11 回	〃	試合を通じてチームワークを高める
第 12 回	バレーボール	ルールの理解
第 13 回	〃	基本技術の習得
第 14 回	〃	戦術の理解
第 15 回	〃	試合を通じてチームワークを高める